2.4　施設等の状況に関すること

平成 29 年度末現在の水源状況、浄水施設、一日最大給水量、最大稼働率、管路延長、管路の経年化率、管路の耐震化適合率、浄水場の耐震化率、配水池の耐震化率を示します。

さらに、令和元年 9 月末現在のアセットマネジメント実施状況、更新計画策定状況、耐震化計画策定状況についても示します。

また、一日最大給水量、最大稼働率については、令和 50 年度までの推計値についても示します。

2.4.1　水源(平成 29 年度現在)

道内の水源別取水量について、以下のとおり示します。

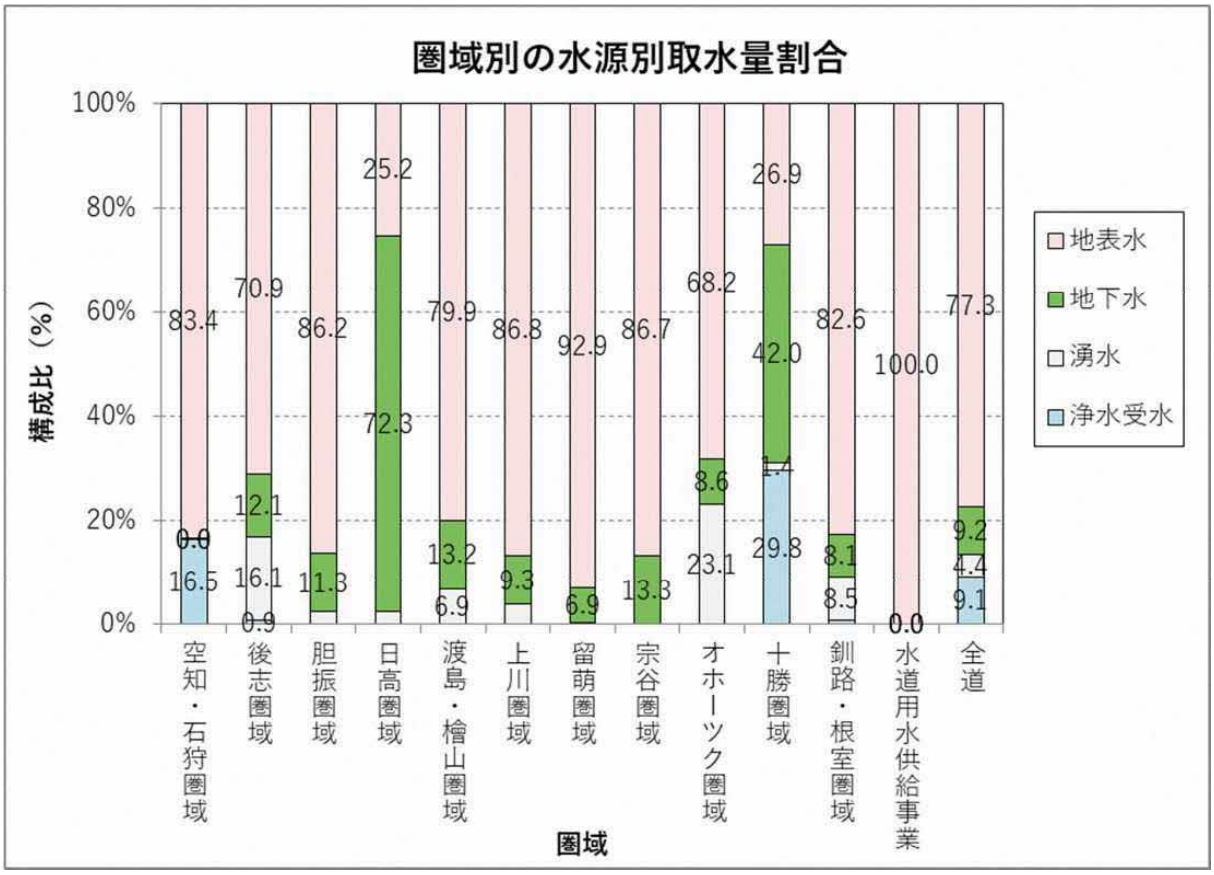
1）水源別取水量

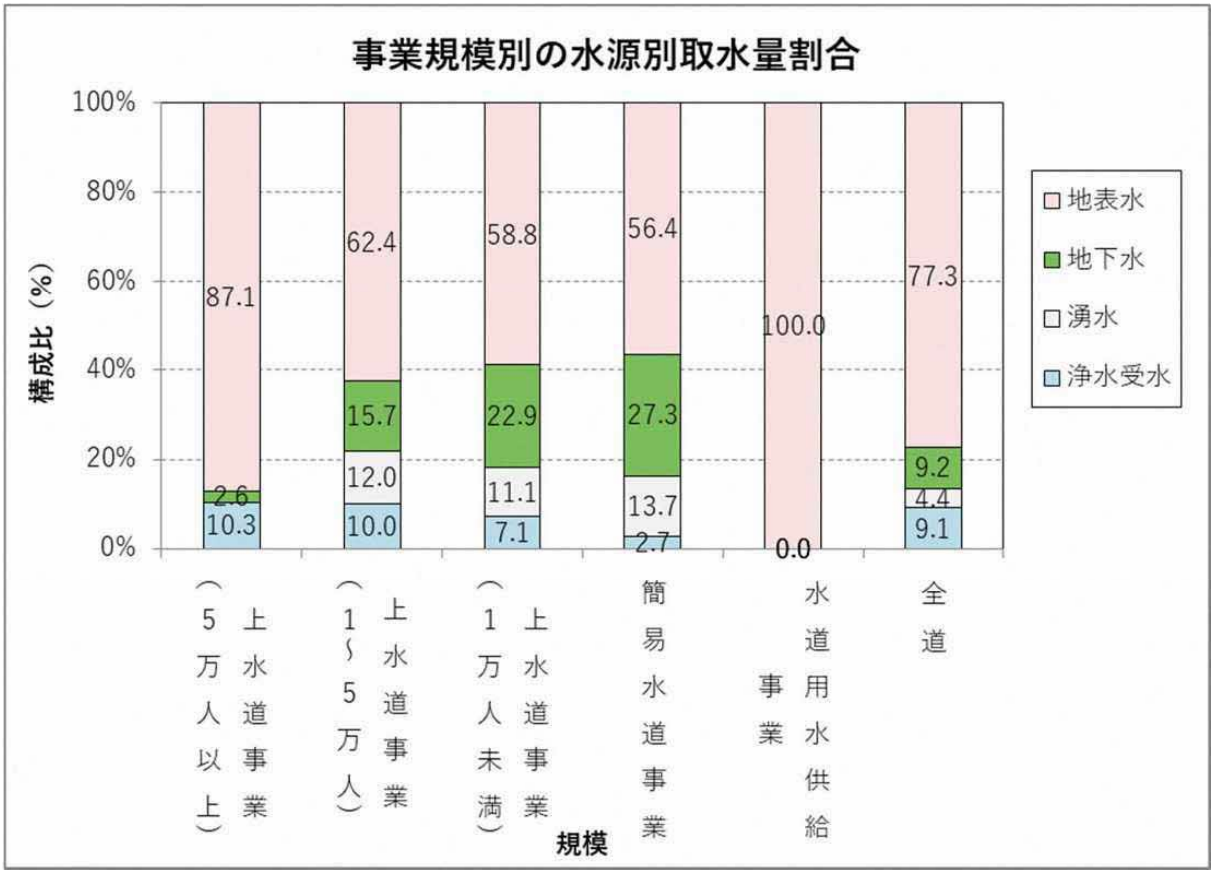
道全体では、8 割が地表水、1 割が地下水、浄水受水となっていますが、圏域別では日高圏域と十勝圏域は地下水の割合が高い他、十勝圏域では浄水受水の割合が高いことが特徴的です。また、水道用水供給事業は、全量ダムを利用しています。

事業規模別では、規模が大きいほど地表水の割合が高く、規模が小さいほど地下水の割合が多くなる傾向がみられます。

圏域名	地表水				地下水			湧水	浄水受水	合計
	ダム直接	ダム放流	湖沼水	表流(自流)水	伏流水	浅井戸	深井戸			
	(千m³)	(千m³)	(千m³)	(千m³)	(千m³)	(千m³)	(千m³)	(千m³)	(千m³)	(千m³)
空知・石狩圏域	5,253	158,673	0	65,432	90	20	9	0	45,498	274,975
	(1.9%)	(57.7%)	(0.0%)	(23.8%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(16.5%)	(100.0%)
後志圏域	0	10,481	0	11,293	1,828	615	1,277	4,931	273	30,698
	(0.0%)	(34.1%)	(0.0%)	(36.8%)	(6.0%)	(2.0%)	(4.2%)	(16.1%)	(0.9%)	(100.0%)
胆振圏域	0	0	1,399	41,121	277	1,941	3,346	1,236	0	49,320
	(0.0%)	(0.0%)	(2.8%)	(83.4%)	(0.6%)	(3.9%)	(6.8%)	(2.5%)	(0.0%)	(100.0%)
日高圏域	0	0	0	2,417	1,372	5,574	0	240	0	9,603
	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(25.2%)	(14.3%)	(58.0%)	(0.0%)	(2.5%)	(0.0%)	(100.0%)
渡島・檜山圏域	23,540	701	0	25,648	2,519	1,335	4,421	4,314	0	62,478
	(37.7%)	(1.1%)	(0.0%)	(41.1%)	(4.0%)	(2.1%)	(7.1%)	(6.9%)	(0.0%)	(100.0%)
上川圏域	0	22,620	0	28,257	1,728	818	2,912	2,301	0	58,635
	(0.0%)	(38.6%)	(0.0%)	(48.2%)	(2.9%)	(1.4%)	(5.0%)	(3.9%)	(0.0%)	(100.0%)
留萌圏域	0	511	0	7,131	0	0	564	0	16	8,223
	(0.0%)	(6.2%)	(0.0%)	(86.7%)	(0.0%)	(0.0%)	(6.9%)	(0.0%)	(0.2%)	(100.0%)
宗谷圏域	7,217	0	0	7,776	82	125	2,092	0	0	17,292
	(41.7%)	(0.0%)	(0.0%)	(45.0%)	(0.5%)	(0.7%)	(12.1%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)
オホーツク圏域	0	14,302	0	18,551	1,431	224	2,501	11,138	51	48,197
	(0.0%)	(29.7%)	(0.0%)	(38.5%)	(3.0%)	(0.5%)	(5.2%)	(23.1%)	(0.1%)	(100.0%)
十勝圏域	0	420	129	11,674	13,250	916	4,939	621	13,544	45,493
	(0.0%)	(0.9%)	(0.3%)	(25.7%)	(29.1%)	(2.0%)	(10.9%)	(1.4%)	(29.8%)	(100.0%)
釧路・根室圏域	875	0	1,238	40,823	1,557	965	1,705	4,423	373	51,958
	(1.7%)	(0.0%)	(2.4%)	(78.6%)	(3.0%)	(1.9%)	(3.3%)	(8.5%)	(0.7%)	(100.0%)
全道	36,885	207,708	2,766	260,124	24,133	12,532	23,765	29,204	59,755	656,872
	(5.6%)	(31.6%)	(0.4%)	(39.6%)	(3.7%)	(1.9%)	(3.6%)	(4.4%)	(9.1%)	(100.0%)
水道用水供給事業	24,756	39,448	0	0	0	0	0	0	0	64,204
（参考）	(38.6%)	(61.4%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)

※( )内は取水量割合　　「平成 29 年度 北海道の水道」より


圏域別の水源別取水量割合
100%
80%
60%
40%
20%
0%
構成比（%）
83.4
0.0
16.5
70.9
12.1
16.1
0.9
86.2
11.3
25.2
72.3
79.9
13.2
6.9
86.8
9.3
92.9
6.9
86.7
13.3
68.2
8.6
23.1
26.9
42.0
1.4
29.8
82.6
8.1
8.5
100.0
0.0
77.3
9.2
4.4
9.1
空知・石狩圏域
後志圏域
胆振圏域
日高圏域
渡島・檜山圏域
上川圏域
留萌圏域
宗谷圏域
オホーツク圏域
十勝圏域
釧路・根室圏域
水道用水供給事業
全道
圏域
地表水
地下水
湧水
浄水受水


事業規模別の水源別取水量割合
100%
80%
60%
40%
20%
0%
構成比（%）
87.1
2.6
10.3
62.4
15.7
12.0
10.0
58.8
22.9
11.1
7.1
56.4
27.3
13.7
2.7
100.0
0.0
77.3
9.2
4.4
9.1
上水道事業（5万人以上）
上水道事業（1～5万人）
上水道事業（1万人未満）
簡易水道事業
水道用水供給事業
全道
規模
地表水
地下水
湧水
浄水受水

2.4.2　浄水施設(平成 29 年度現在)

道内の浄水施設の状況について、以下のとおり示します。

1）浄水処理別浄水場数

浄水場の浄水処理方法については、ろ過処理が全体の 2/3 を占めており、新たな水処理方法である膜ろ過も約 7%となっています。

圏域名	消毒のみ	緩速ろ過	急速ろ過	膜ろ過	合計
空知・石狩圏域	2	2	19	5	28
後志圏域	33	9	18	7	67
胆振圏域	17	7	12	3	39
日高圏域	8	9	6	1	24
渡島・檜山圏域	35	41	14	1	91
上川圏域	19	22	26	4	71
留萌圏域	2	2	15	0	19
宗谷圏域	12	10	9	1	32
オホーツク圏域	25	17	20	10	72
十勝圏域	30	32	26	4	92
釧路・根室圏域	20	13	17	8	58
水道用水供給事業	0	0	6	0	6
全道	203 (33.9%)	164 (27.4%)	188 (31.4%)	44 (7.3%)	599 (100.0%)

2.4.3　一日最大給水量

道内の水道事業の一日最大給水量の状況及び推計結果について、以下のとおり示します。

1）圏域別一日最大給水量推計

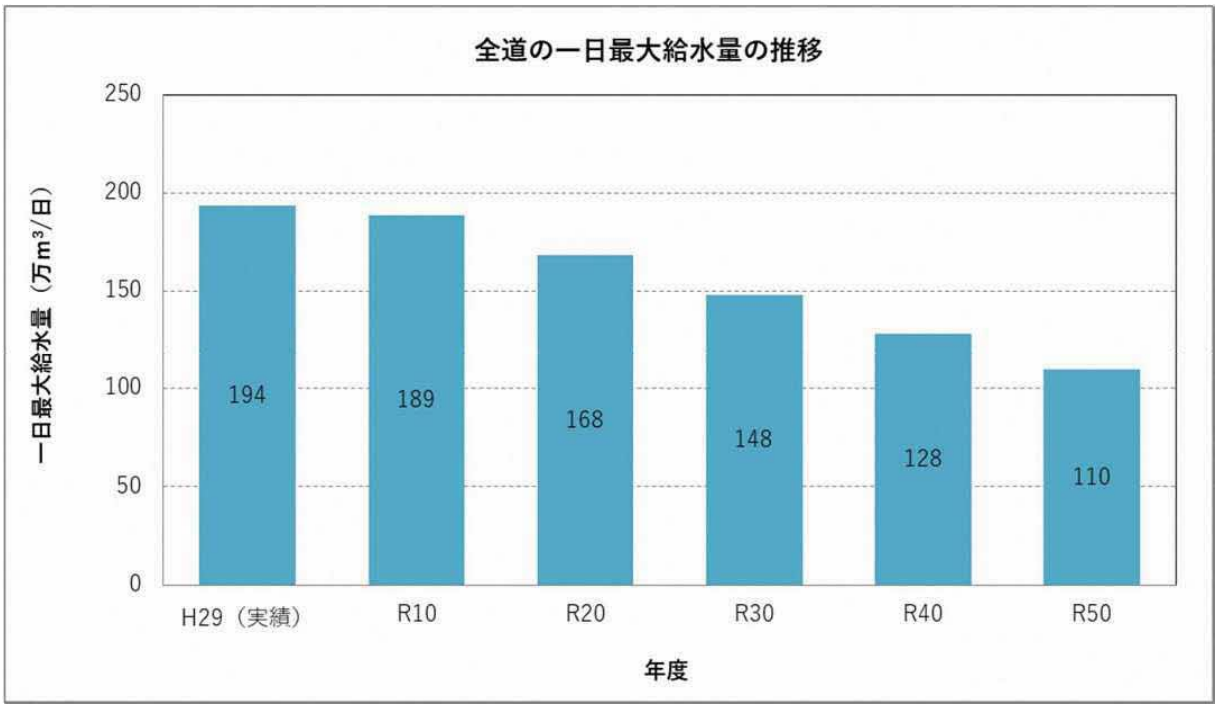
一日最大給水量について、平成 29 年度実績値と令和 10 年度から令和 50 年度までの 10 年ごとの推計値を示します。

圏域名		H29（実績）	R10	R20	R30	R40	R50
空知・石狩圏域	（m^3/日）	834,330	835,646	778,774	710,315	638,087	562,390
	（%）	(100.0)	(100.2)	(93.3)	(85.1)	(76.5)	(67.4)
後志圏域	（m^3/日）	98,772	93,997	78,443	64,958	53,904	44,968
	（%）	(100.0)	(95.2)	(79.4)	(65.8)	(54.6)	(45.5)
胆振圏域	（m^3/日）	138,485	132,404	115,548	99,105	84,165	70,465
	（%）	(100.0)	(95.6)	(83.4)	(71.6)	(60.8)	(50.9)
日高圏域	（m^3/日）	30,336	26,200	21,732	17,766	14,425	11,692
	（%）	(100.0)	(86.4)	(71.6)	(58.6)	(47.6)	(38.5)
渡島・檜山圏域	（m^3/日）	178,304	164,423	136,407	110,602	88,370	69,497
	（%）	(100.0)	(92.2)	(76.5)	(62.0)	(49.6)	(39.0)
上川圏域	（m^3/日）	169,809	160,395	138,746	116,844	96,527	77,885
	（%）	(100.0)	(94.5)	(81.7)	(68.8)	(56.8)	(45.9)
留萌圏域	（m^3/日）	24,645	22,741	17,626	13,284	9,804	7,127
	（%）	(100.0)	(92.3)	(71.5)	(53.9)	(39.8)	(28.9)
宗谷圏域	（m^3/日）	43,116	42,693	33,715	25,867	19,440	14,285
	（%）	(100.0)	(99.0)	(78.2)	(60.0)	(45.1)	(33.1)
オホーツク圏域	（m^3/日）	135,776	130,259	110,839	92,362	75,817	61,288
	（%）	(100.0)	(95.9)	(81.6)	(68.0)	(55.8)	(45.1)
十勝圏域	（m^3/日）	139,076	140,637	130,423	119,016	107,130	94,832
	（%）	(100.0)	(101.1)	(93.8)	(85.6)	(77.0)	(68.2)
釧路・根室圏域	（m^3/日）	143,079	136,406	122,446	108,733	96,199	84,992
	（%）	(100.0)	(95.3)	(85.6)	(76.0)	(67.2)	(59.4)
全道	（m^3/日）	1,935,728	1,885,801	1,684,699	1,478,852	1,283,868	1,099,421
	（%）	(100.0)	(97.4)	(87.0)	(76.4)	(66.3)	(56.8)

※（）内は、H29（実績値）を 100 とした値[一日最大給水量率]

2）全道（北海道）の一日最大給水量の推移

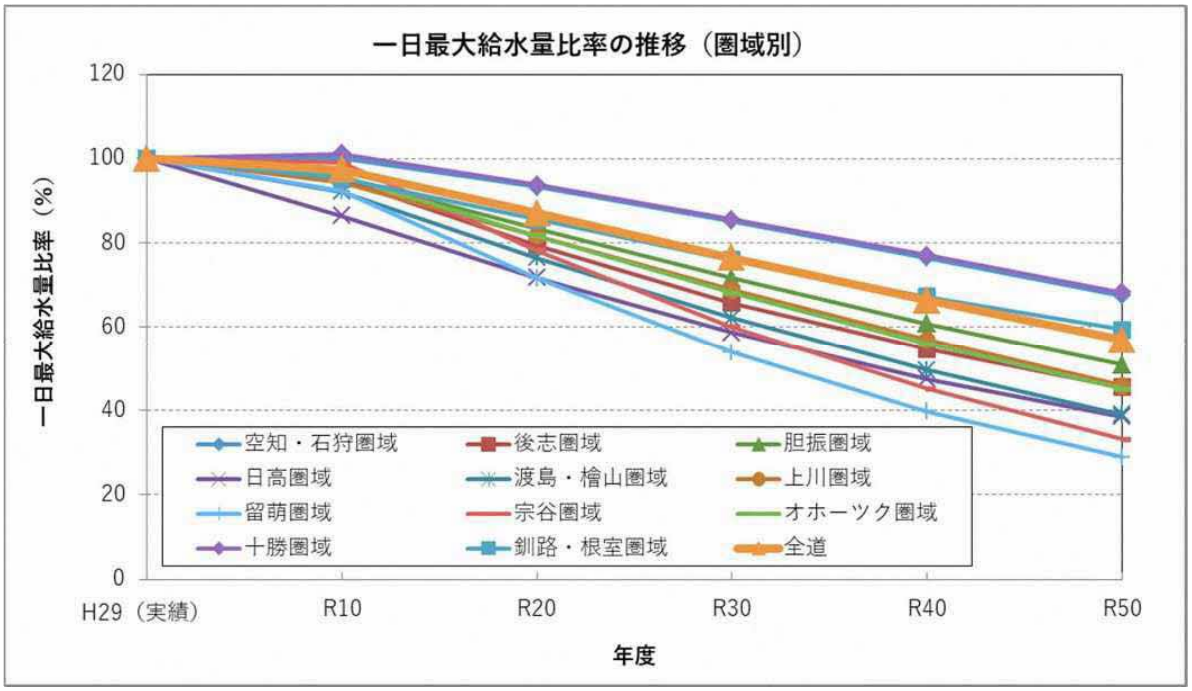
全道の一日最大給水量は給水人口の減少に伴い、令和 50 年度には平成 29 年度の半分近くまで減少する見込みです。



※H29 は実績値。それ以外は推計値。

3）圏域別の一日最大給水量比率の推移

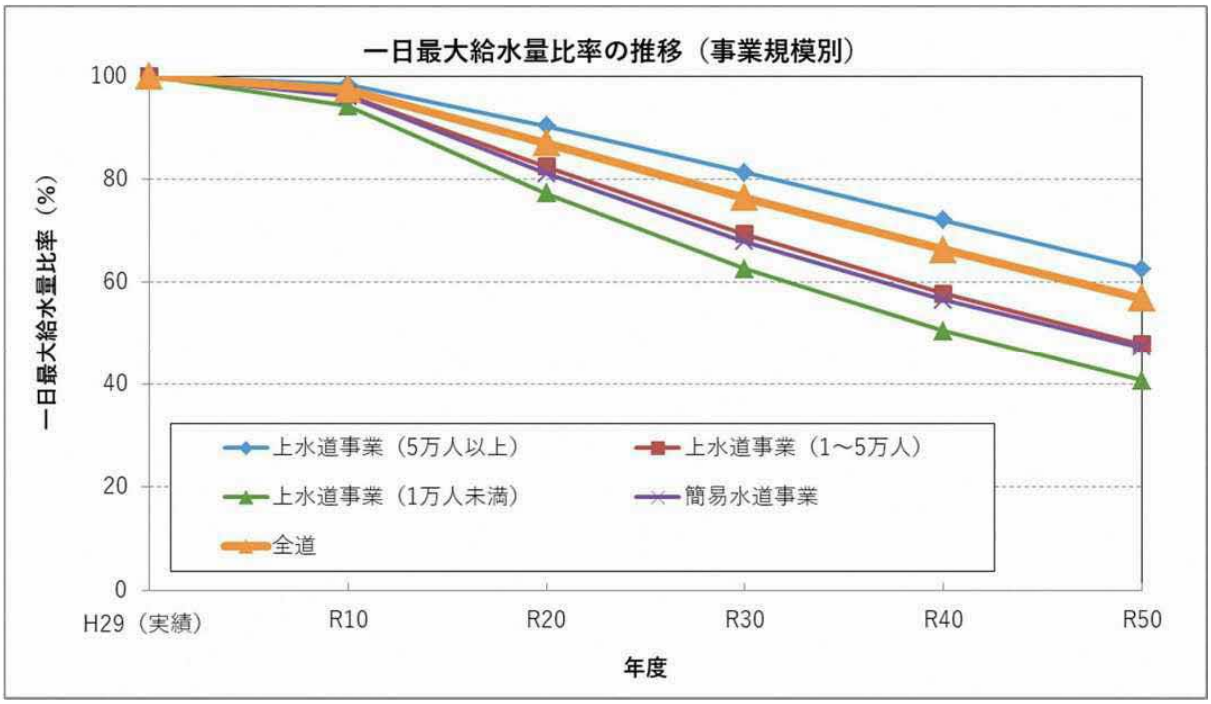
平成 29 年度実績値を 100 とした場合の圏域別の一日最大給水量は、給水人口と同様に留萌圏域、宗谷圏域、日高圏域、渡島・檜山圏域など人口規模が小規模な圏域ほど減少が大きくなる傾向を示しています。



※一日最大給水量比率（%）＝当該年度の一日最大給水量（推計値）/平成 29 年度の一日最大給水量（実績値）×100

4）事業規模別の一日最大給水量比率の推移

平成 29 年度実績値を 100 とした場合の事業規模別の一日最大給水量は、上水道事業に関しては、給水人口と同様に事業規模が小さいほど減少が大きくなる傾向を示しています。



※一日最大給水量比率（%）＝当該年度の一日最大給水量（推計値）/平成 29 年度の一日最大給水量（実績値）×100

2.4.4　最大稼働率

道内における浄水場の最大稼働率の状況及び推計結果について、以下のとおり示します。

なお、最大稼働率の推計値は、平成 29 年度末現在の施設能力を一定とした場合の計算値としています。

1）圏域別最大稼働率推計

圏域別における浄水場の最大稼働率について、平成 29 年度実績値と令和 10 年度から令和 50 年度までの 10 年ごとの推計値を示します。

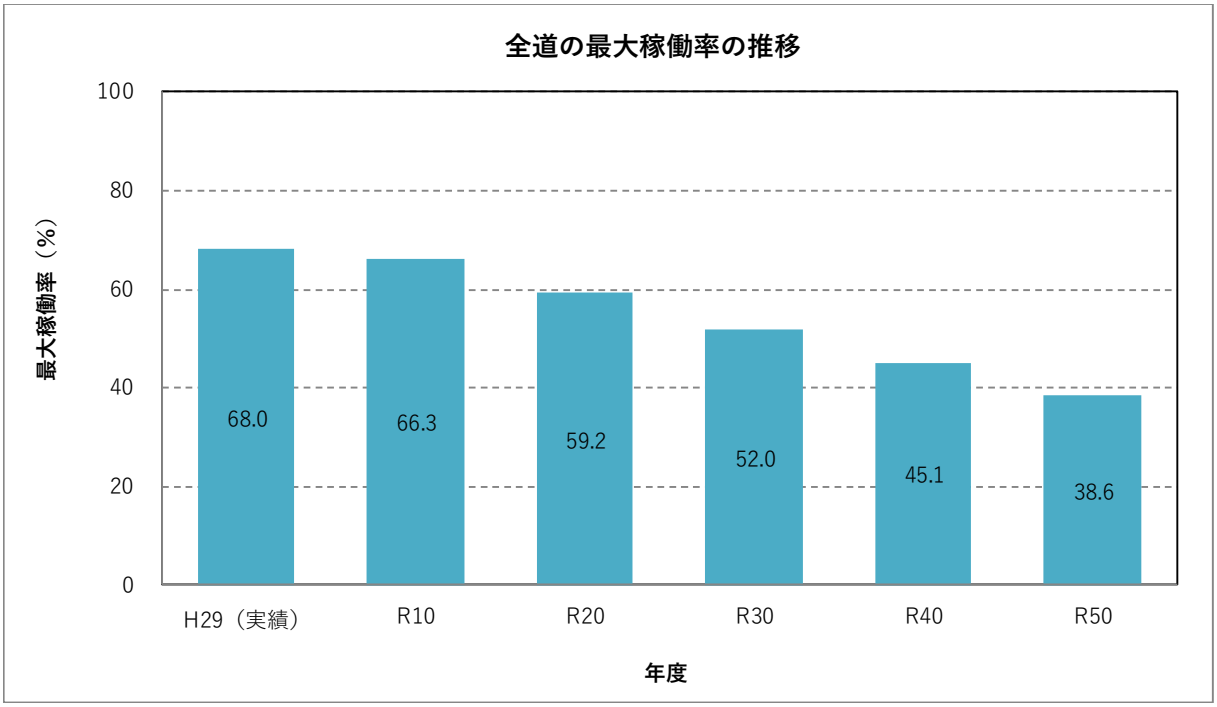
圏域名		H29（実績）	R10	R20	R30	R40	R50	施設能力（H29年度現在）
空知・石狩圏域	（m^3/日）	834,330	835,646	778,774	710,315	638,087	562,390	1,239,638
	（%）	67.3	67.4	62.8	57.3	51.5	45.4	
後志圏域	（m^3/日）	98,772	93,997	78,443	64,958	53,904	44,968	134,106
	（%）	73.7	70.1	58.5	48.4	40.2	33.5	
胆振圏域	（m^3/日）	138,485	132,404	115,548	99,105	84,165	70,465	209,824
	（%）	66.0	63.1	55.1	47.2	40.1	33.6	
日高圏域	（m^3/日）	30,336	26,200	21,732	17,766	14,425	11,692	40,312
	（%）	75.3	65.0	53.9	44.1	35.8	29.0	
渡島・檜山圏域	（m^3/日）	178,304	164,423	136,407	110,602	88,370	69,497	241,346
	（%）	73.9	68.1	56.5	45.8	36.6	28.8	
上川圏域	（m^3/日）	169,809	160,395	138,746	116,844	96,527	77,885	238,077
	（%）	71.3	67.4	58.3	49.1	40.5	32.7	
留萌圏域	（m^3/日）	24,645	22,741	17,626	13,284	9,804	7,127	33,975
	（%）	72.5	66.9	51.9	39.1	28.9	21.0	
宗谷圏域	（m^3/日）	43,116	42,693	33,715	25,867	19,440	14,285	83,858
	（%）	51.4	50.9	40.2	30.8	23.2	17.0	
オホーツク圏域	（m^3/日）	135,776	130,259	110,839	92,362	75,817	61,288	194,138
	（%）	69.9	67.1	57.1	47.6	39.1	31.6	
十勝圏域	（m^3/日）	139,076	140,637	130,423	119,016	107,130	94,832	207,324
	（%）	67.1	67.8	62.9	57.4	51.7	45.7	
釧路・根室圏域	（m^3/日）	143,079	136,406	122,446	108,733	96,199	84,992	222,475
	（%）	64.3	61.3	55.0	48.9	43.2	38.2	
全道	（m^3/日）	1,935,728	1,885,801	1,684,699	1,478,852	1,283,868	1,099,421	2,845,073
	（%）	68.0	66.3	59.2	52.0	45.1	38.6	

※上段は一日最大給水量（H29 年度は実績値。それ以外は推計値。）

※下段は最大稼働率（最大稼働率（%）＝当該年度の一日最大給水量/施設能力（H29 年度現在）×100）

2）全道の最大稼働率の推移

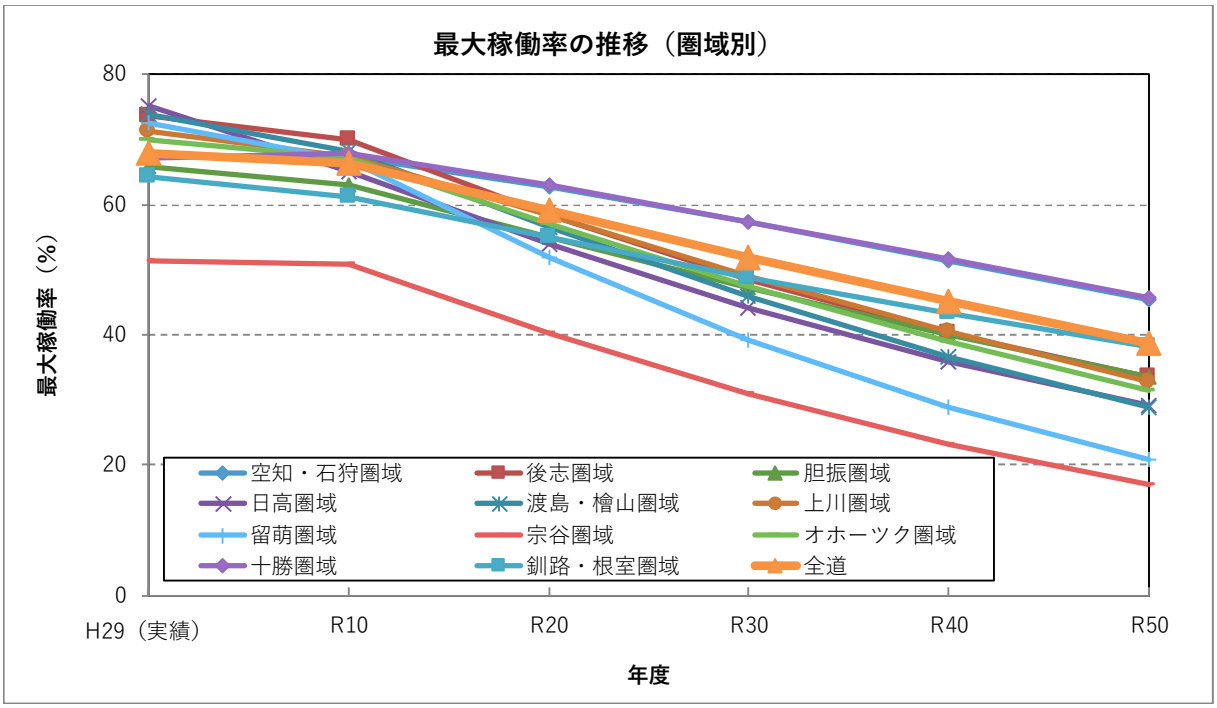
全道の最大稼働率は、給水人口の減少に伴い、令和 50 年度には平成 29 年度の半分近くまで減少する見込みであり、今まで以上に施設規模が過大な状況となることが想定されます。



※H29 は実績値。それ以外は推計値。最大稼働率（%）＝当該年度の一日最大給水量/施設能力（H29 年度現在）×100

3）圏域別の最大稼働率の推移

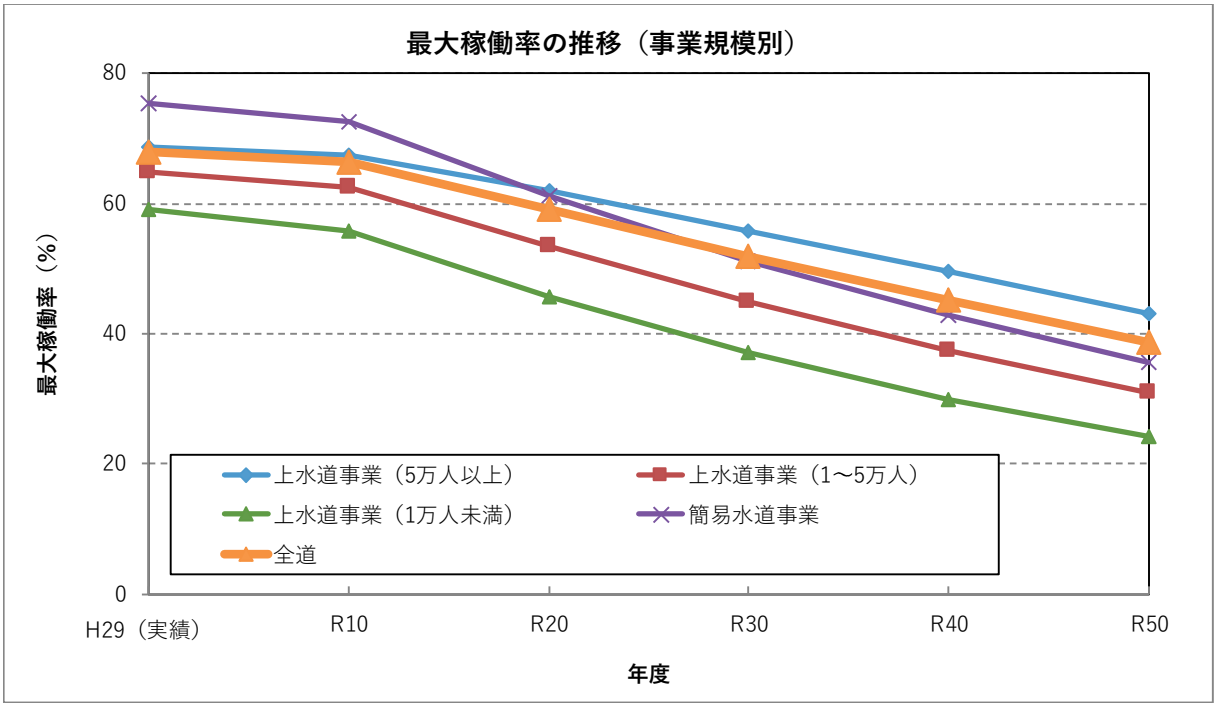
平成29年度実績値を100とした場合の圏域別の最大稼働率は、給水人口と同様に留萌圏域、宗谷圏域、日高圏域、渡島・檜山圏域など人口規模が小規模な圏域ほど減少が大きくなる傾向を示しています。



※H29は実績値。それ以外は推計値。※最大稼働率（%）＝当該年度の一日最大給水量/施設能力（H29年度現在）×100

4）事業規模別最大稼働率の推移

平成 29 年度実績値を 100 とした場合の事業規模別の最大稼働率は、上水道事業に関しては給水人口と同様に事業規模が小さいほど減少が大きくなる傾向を示しています。



※H29 は実績値。それ以外は推計値。※最大稼働率（%）＝当該年度の一日最大給水量/施設能力（H29 年度現在）×100

2.4.5　管路延長(平成 29 年度現在)

道内の管路延長の状況について、以下のとおり示します。

全道の管路延長は、9 割弱を配水支管が占めています。なお、簡易水道事業については、配水本管と配水支管の種別がないため、全て配水支管に計上しています。

圏域名	導水管 （ｋｍ）	送水管 （ｋｍ）	配水本管 （ｋｍ）	配水支管 （ｋｍ）	合計 （ｋｍ）
空知・石狩圏域	106 (0.7%)	330 (2.2%)	1,193 (8.0%)	13,241 (89.0%)	14,870 (100.0%)
後志圏域	109 (4.6%)	164 (6.9%)	27 (1.1%)	2,076 (87.4%)	2,376 (100.0%)
胆振圏域	85 (2.3%)	206 (5.6%)	147 (4.0%)	3,239 (88.1%)	3,678 (100.0%)
日高圏域	46 (3.9%)	135 (11.4%)	5 (0.4%)	993 (84.2%)	1,180 (100.0%)
渡島・檜山圏域	204 (5.7%)	150 (4.2%)	228 (6.4%)	3,007 (83.8%)	3,589 (100.0%)
上川圏域	157 (2.9%)	129 (2.4%)	211 (3.9%)	4,855 (90.7%)	5,353 (100.0%)
留萌圏域	55 (5.2%)	88 (8.3%)	20 (1.9%)	896 (84.6%)	1,059 (100.0%)
宗谷圏域	177 (10.7%)	82 (4.9%)	96 (5.8%)	1,302 (78.6%)	1,657 (100.0%)
オホーツク圏域	262 (6.1%)	338 (7.9%)	392 (9.1%)	3,306 (76.9%)	4,298 (100.0%)
十勝圏域	195 (3.1%)	256 (4.0%)	376 (5.9%)	5,537 (87.0%)	6,363 (100.0%)
釧路・根室圏域	205 (4.4%)	289 (6.2%)	111 (2.4%)	4,059 (87.0%)	4,663 (100.0%)
水道用水供給事業	34 (10.3%)	298 (89.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	332 (100.0%)
全道	1,636 (3.3%)	2,463 (5.0%)	2,806 (5.7%)	42,512 (86.0%)	49,417 (100.0%)

※（　）内は、管路延長比率

2.4.6　アセットマネジメント実施状況（令和元年 9 月末現在）

計画的な施設の更新と必要な資金確保等について検討を行う「アセットマネジメント」の実施状況については以下のとおりであり、規模が大きいほど実施率が高くなっています。

また、圏域別でみると実施率にばらつきがある状況です。

圏域名	水道事業経営自治体管内の給水人口　※（　）内は実施率										水道事業等経営自治体
	5万人以上		1～5万人		0.5～1万人		0.5万人未満		全体		
空知・石狩圏域	8	(100.0%)	6	(75.0%)	3	(75.0%)	3	(60.0%)	20	(80.0%)	25
後志圏域	1	(100.0%)	3	(100.0%)	0	(－)	1	(6.3%)	5	(25.0%)	20
胆振圏域	2	(100.0%)	2	(66.7%)	2	(66.7%)	2	(66.7%)	8	(72.7%)	11
日高圏域	0	(－)	2	(66.7%)	0	(－)	1	(25.0%)	3	(42.9%)	7
渡島・檜山圏域	0	(0.0%)	4	(100.0%)	2	(50.0%)	3	(33.3%)	9	(50.0%)	18
上川圏域	1	(100.0%)	2	(50.0%)	1	(25.0%)	1	(7.7%)	5	(22.7%)	22
留萌圏域	0	(－)	1	(100.0%)	0	(0.0%)	2	(33.3%)	3	(37.5%)	8
宗谷圏域	0	(－)	1	(100.0%)	0	(0.0%)	2	(25.0%)	3	(30.0%)	10
オホーツク圏域	1	(100.0%)	4	(80.0%)	1	(50.0%)	1	(10.0%)	7	(38.9%)	18
十勝圏域	1	(100.0%)	2	(66.7%)	6	(75.0%)	0	(0.0%)	9	(47.4%)	19
釧路・根室圏域	1	(100.0%)	3	(100.0%)	0	(0.0%)	1	(33.3%)	5	(38.5%)	13
水道用水供給事業	5	(100.0%)							5	(100.0%)	5
全道（水道用水供給事業除	15	(93.8%)	30	(78.9%)	15	(45.5%)	17	(20.2%)	77	(45.0%)	171

※複数の水道事業の回答があった自治体において、異なる回答の場合は「実施」としている。

2.4.7　更新計画策定状況（令和元年 9 月末現在）

更新計画の策定状況については以下のとおりであり、全道的には浄水場、ポンプ場・配水池については 3 割弱、管路については 4 割強の策定率となっています。また、圏域別でみると、策定率にばらつきがある状況です。

圏域名	策定自治体数　※（　）内は策定率						水道事業等経営自治体
	浄水場		ポンプ場・配水池		管路		
空知・石狩圏域	5	(20.0%)	8	(32.0%)	18	(72.0%)	25
後志圏域	3	(15.0%)	4	(20.0%)	8	(40.0%)	20
胆振圏域	4	(36.4%)	5	(45.5%)	6	(54.5%)	11
日高圏域	3	(42.9%)	4	(57.1%)	3	(42.9%)	7
渡島・檜山圏域	5	(27.8%)	5	(27.8%)	9	(50.0%)	18
上川圏域	7	(31.8%)	4	(18.2%)	8	(36.4%)	22
留萌圏域	2	(25.0%)	2	(25.0%)	1	(12.5%)	8
宗谷圏域	5	(50.0%)	5	(50.0%)	4	(40.0%)	10
オホーツク圏域	3	(16.7%)	3	(16.7%)	5	(27.8%)	18
十勝圏域	4	(21.1%)	4	(21.1%)	6	(31.6%)	19
釧路・根室圏域	3	(23.1%)	4	(30.8%)	4	(30.8%)	13
水道用水供給事業	1	(20.0%)	1	(20.0%)	2	(40.0%)	5
全道	45	(25.6%)	49	(27.8%)	74	(42.0%)	176

※複数の水道事業の回答があった自治体において、異なる回答の場合は「策定」としている。

2.4.8　管路経年化率(平成 29 年度現在)

道内の上水道事業及び水道用水供給事業における管路の経年化率（法定耐用年数 40 年を超える管路延長/管路総延長）の状況について、以下のとおり示します。

１）圏域別事業規模別（給水人口別）の管路経年化率（平成 29 年度現在）

事業規模別でみると、全国平均では規模が小さいほど経年化率が低くなるのに対し、全道平均では規模間に大きな差はなく、全体として全国に比べ経年化が進んでいる状況です。

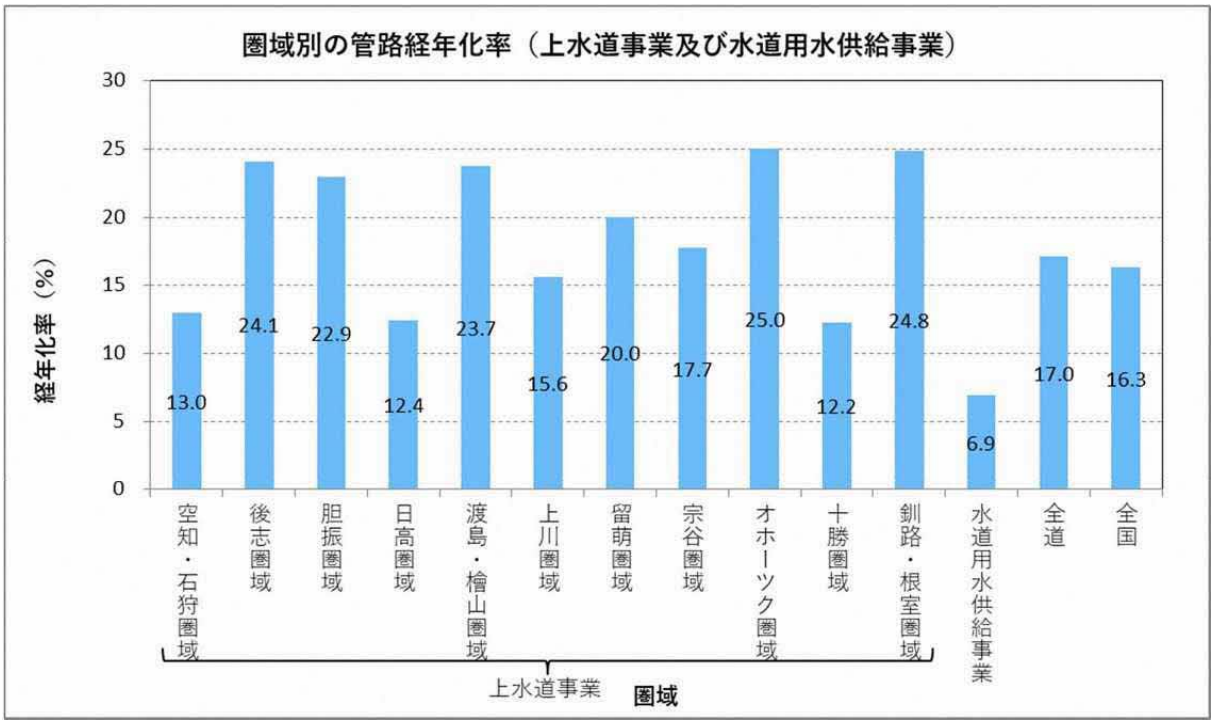
なお、簡易水道事業については、水道統計資料にないため割愛しています。

圏域名	上水道事業及び水道用水供給事業の管路経年化率			
	5万人以上（%）	1～5万人（%）	1万人未満（%）	全体（%）
空知・石狩圏域	12.1	16.0	15.4	13.0
後志圏域	23.5	24.9	－	24.1
胆振圏域	27.0	16.3	17.8	22.9
日高圏域	－	12.5	10.4	12.4
渡島・檜山圏域	29.4	15.8	21.7	23.7
上川圏域	14.3	13.5	20.5	15.6
留萌圏域	－	35.7	10.4	20.0
宗谷圏域	－	0.1	78.1	17.7
オホーツク圏域	30.4	25.4	15.4	25.0
十勝圏域	14.4	12.0	10.2	12.2
釧路・根室圏域	29.5	25.9	12.8	24.8
水道用水供給事業	7.9	0.0	－	6.9
全道	16.8	17.6	17.0	17.0
全国	17.7	13.1	11.5	16.3

※管路経年化率（%）＝法定耐用年数 40 年を超えた管路延長/管路総延長×100

２）圏域別の管路経年化率（平成 29 年度現在）

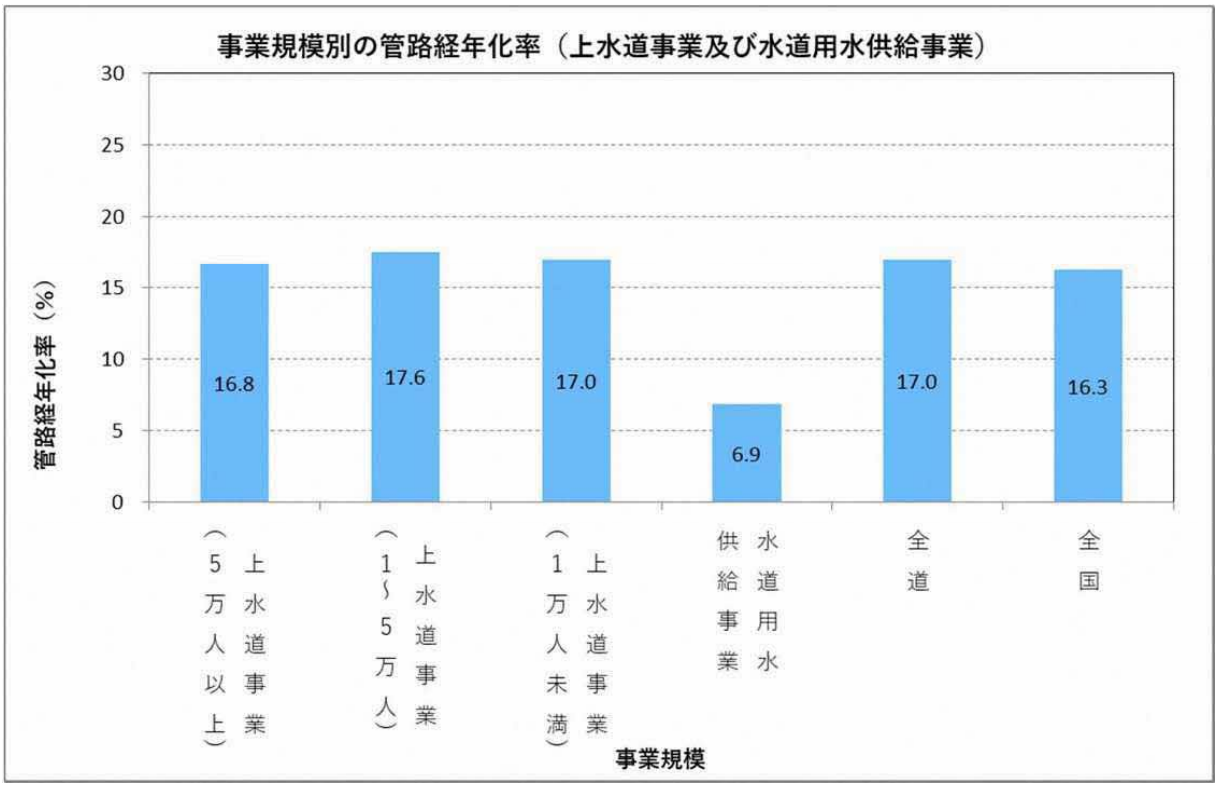
圏域別の管路の経年化の状況は以下のとおりであり、圏域間で 12.2%～25.0%と 2 倍以上のひらきがあります。



※管路経年化率（%）＝法定耐用年数 40 年を超えた管路延長/管路総延長×100

3）事業規模別（給水人口別）の管路経年化率（平成 29 年度現在）

事業規模別の管路の経年化の状況は、以下のとおりです。



※管路経年化率（%）＝法定耐用年数 40 年を超えた管路延長/管路総延長×100

2.4.9　耐震化計画策定状況(令和元年 9 月末現在)

耐震化計画の策定状況については以下のとおりであり、全道的には浄水場、配水池は 2 割弱、管路は若干高い 3 割弱の策定率となっています。また、圏域別でみると策定率にばらつきがある状況です。

圏域名	策定自治体数　※（　）内は策定率			水道事業等経営自治体
	浄水場	配水池	管路	
空知・石狩圏域	5　(20.0%)	7　(28.0%)	12　(48.0%)	25
後志圏域	1　(5.0%)	2　(10.0%)	5　(25.0%)	20
胆振圏域	4　(36.4%)	4　(36.4%)	4　(36.4%)	11
日高圏域	1　(14.3%)	1　(14.3%)	4　(57.1%)	7
渡島・檜山圏域	2　(11.1%)	1　(5.6%)	3　(16.7%)	18
上川圏域	2　(9.1%)	1　(4.5%)	4　(18.2%)	22
留萌圏域	1　(12.5%)	1　(12.5%)	1　(12.5%)	8
宗谷圏域	2　(20.0%)	2　(20.0%)	2　(20.0%)	10
オホーツク圏域	2　(11.1%)	2　(11.1%)	1　(5.6%)	18
十勝圏域	3　(15.8%)	4　(21.1%)	4　(21.1%)	19
釧路・根室圏域	2　(15.4%)	3　(23.1%)	3　(23.1%)	13
水道用水供給事業	4　(80.0%)	3　(60.0%)	3　(60.0%)	5
全道	29　(16.5%)	31　(17.6%)	46　(26.1%)	176

※複数の水道事業の回答があった自治体において、異なる回答の場合は「策定」としている。

2.4.10　基幹管路の耐震適合率（平成 29 年度現在）

道内の上水道事業及び水道用水供給事業における基幹管路の耐震適合率（耐震適合性のある基幹管路の延長/基幹管路の総延長）の状況について、以下のとおり示します。

１）圏域別事業規模別（給水人口別）の基幹管路の耐震適合率

全道平均では全ての規模で全国平均を上回っており、全体として基幹管路※1においては全国に比べ耐震適合性※2がある管路の布設が進んでいる状況です。

しかし、事業規模別では 25.0%～52.7%と 2 倍以上のひらきがあるほか、圏域による差も大きい状況です。

なお、簡易水道事業については、配水本管と配水支管の区別が無く、基幹管路が導水管と送水管しか計上できないため割愛しています。

（※１）基幹管路とは、導水管、送水管及び配水本管のことをいい、配水本管とは配水管のうち直接給水管を分岐しない管をいいます。

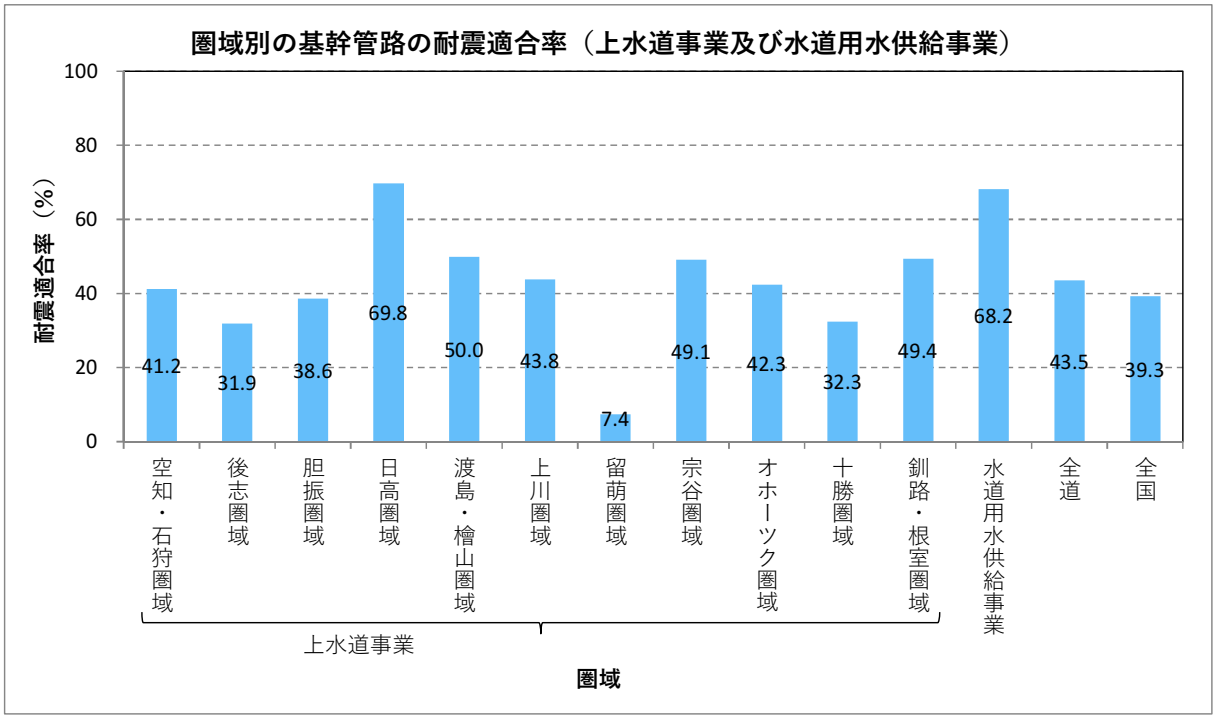
（※２）耐震適合性のある管とは、耐震管以外でも管路が布設された地盤の性状を勘案すれば耐震性があると評価できる管路であり、それらを耐震管に加えたもののことを言います。

圏域名	上水道事業及び水道用水供給事業の耐震適合率			
	5万人以上（%）	1～5万人（%）	1万人未満（%）	全体（%）
空知・石狩圏域	45.6	52.0	25.9	41.2
後志圏域	29.0	39.8	－	31.9
胆振圏域	66.0	7.9	9.0	38.6
日高圏域	－	72.0	0.0	69.8
渡島・檜山圏域	55.1	28.9	60.6	50.0
上川圏域	63.1	50.0	28.4	43.8
留萌圏域	－	5.7	9.0	7.4
宗谷圏域	－	57.0	40.0	49.1
オホーツク圏域	26.1	74.7	8.5	42.3
十勝圏域	52.0	45.5	11.0	32.3
釧路・根室圏域	38.5	65.6	28.6	49.4
水道用水供給事業	78.1	2.7	－	68.2
全道	49.5	52.7	25.0	43.5
全国	48.1	26.0	24.1	39.3

※基幹管路の耐震適合率＝耐震適合性のある基幹管路の延長/基幹管路の総延長×100

2）圏域別の基幹管路の耐震適合率

圏域別の基幹管路の耐震適合性については、日高圏域の 69.8%をはじめ全国平均を上回る圏域が多くある一方で、留萌圏域では 10%を下回り、他の圏域との差が大きい状況です。

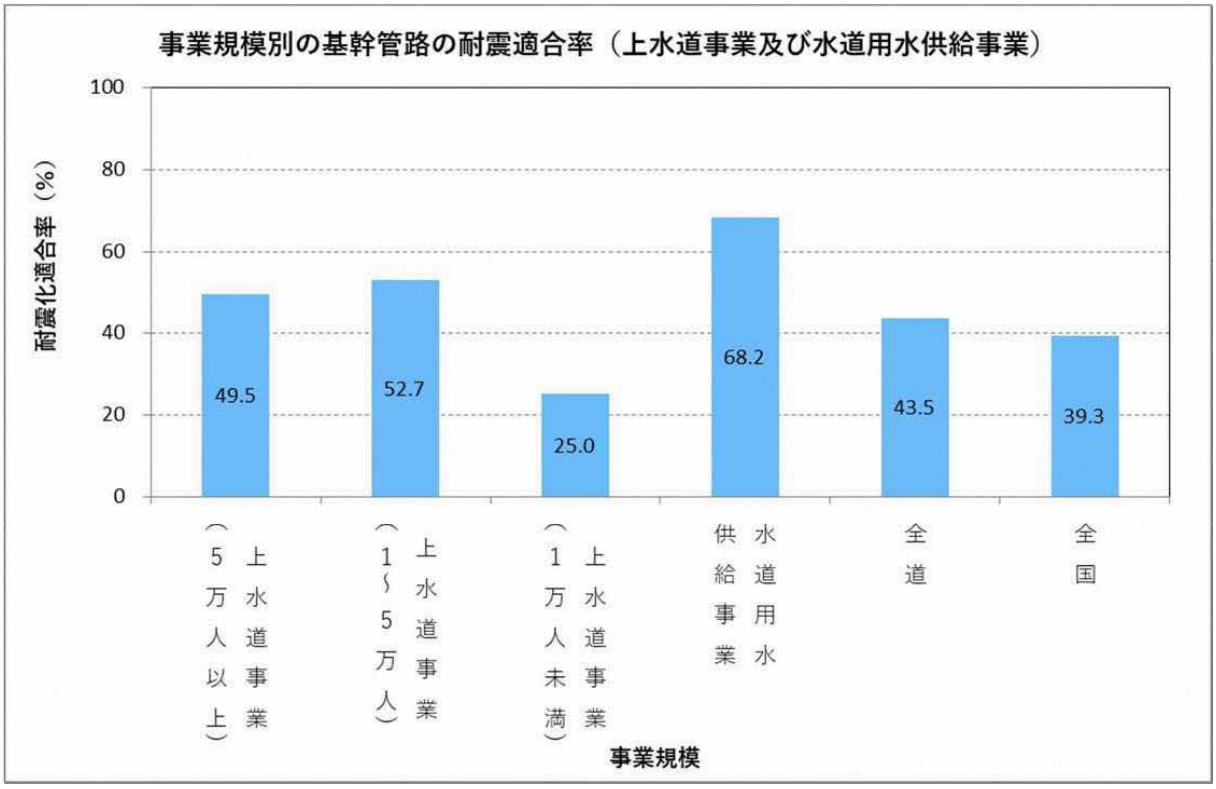


※基幹管路の耐震適合率（%）＝耐震適合性のある基幹管路の延長/基幹管路の総延長×100

3）事業規模別（給水人口別）の基幹管路の耐震適合率

事業規模別の基幹管路の耐震適合性については、以下のとおりです。

１万人未満の規模では、１万人以上の規模に比べ耐震適合率が約半分に留まっています。



※基幹管路の耐震適合率（%）＝耐震適合性のある基幹管路の延長/基幹管路の総延長×100

2.4.11　浄水場の耐震化率(平成 29 年度現在)

道内の上水道事業及び水道用水供給事業における浄水場の耐震化率（耐震化浄水施設能力/全浄水施設能力）の状況について、以下のとおり示します。

１）圏域別事業規模別（給水人口別）の浄水場の耐震化率

事業規模別の全道平均は、１万人未満の規模で全国平均に近いほかは全国平均を大きく下回り、全体として浄水場の耐震化は進んでいない状況です。また、圏域別では０％のところもあるなど、圏域による差が大きい状況です。

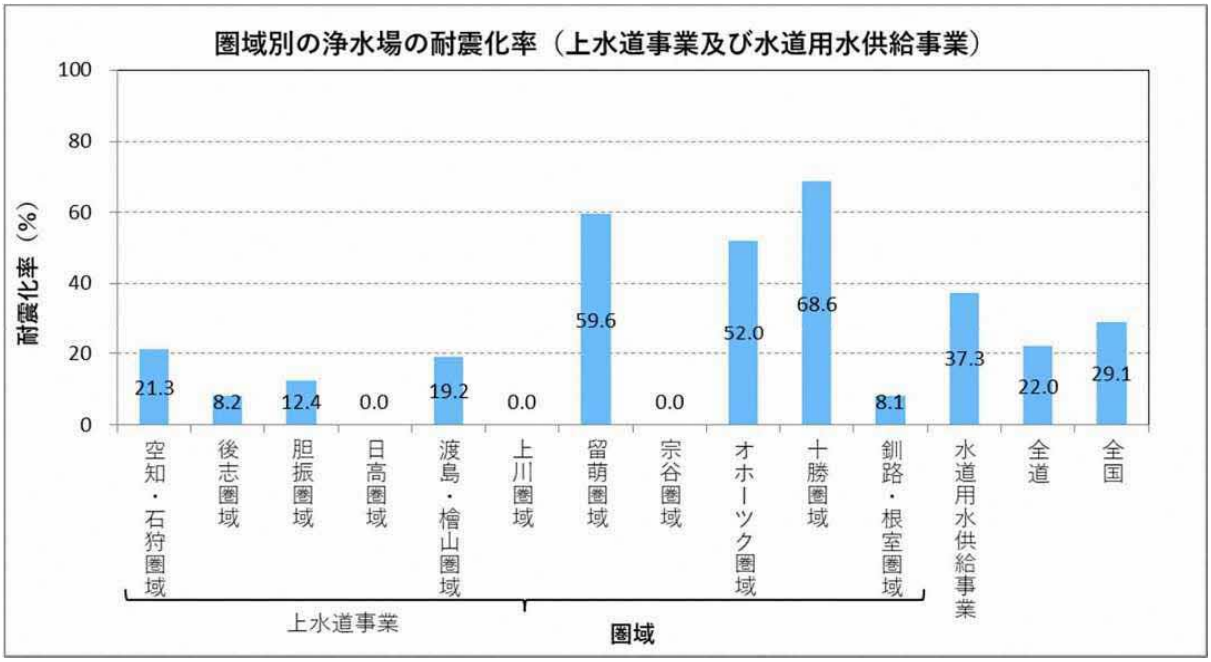
なお、簡易水道事業については、水道統計資料にないため割愛しています。

圏域名	上水道事業及び水道用水供給事業の浄水場の耐震化率			
	5万人以上（%）	1～5万人（%）	1万人未満（%）	全体（%）
空知・石狩圏域	21.6	9.3	61.3	21.3
後志圏域	0.0	25.7	－	8.2
胆振圏域	12.0	4.3	37.0	12.4
日高圏域	－	0.0	0.0	0.0
渡島・檜山圏域	15.6	35.2	12.1	19.2
上川圏域	0.0	0.0	0.0	0.0
留萌圏域	－	100.0	0.0	59.6
宗谷圏域	－	0.0	0.0	0.0
オホーツク圏域	100.0	1.3	59.3	52.0
十勝圏域	97.3	87.2	12.4	68.6
釧路・根室圏域	0.0	15.3	20.5	8.1
水道用水供給事業	40.5	0.0	－	37.3
全道	23.8	14.7	22.0	22.0
全国	30.4	20.9	21.1	29.1

※浄水場の耐震化率%）＝耐震化浄水施設能力/全浄水施設能力×100

2）圏域別の浄水場の耐震化率

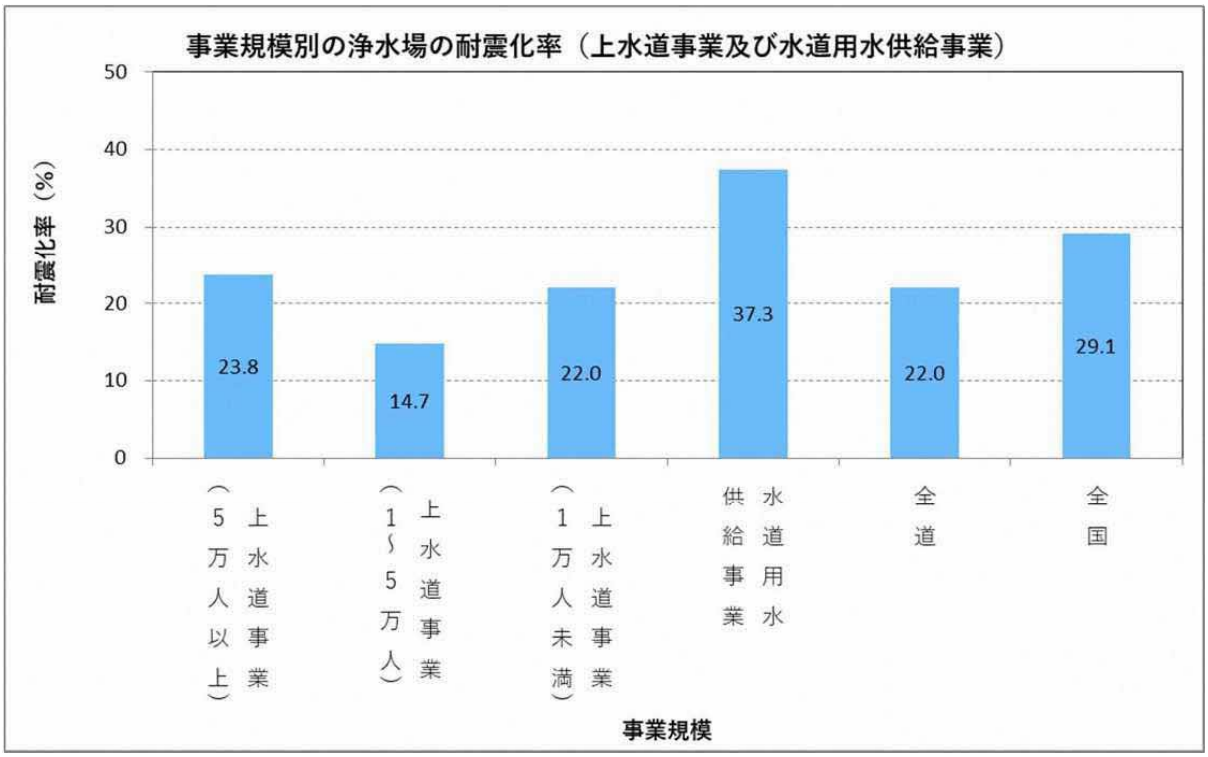
圏域別の浄水場の耐震化の状況については、十勝、留萌、オホーツク圏域が全国平均を大きく上回っていますが、日高、上川、宗谷圏域は 0%であり、圏域間の格差が大きい状況です。



※浄水場の耐震化率（%）＝耐震化浄水施設能力/全浄水施設能力×100

3）事業規模別（給水人口別）の浄水場の耐震化率

事業規模別の浄水場の耐震化の状況については、以下のとおりです。



※浄水場の耐震化率（%）＝耐震化浄水施設能力/全浄水施設能力×100

2.4.12　配水池の耐震化率(平成 29 年度現在)

道内の上水道事業及び水道用水供給事業における配水池の耐震化率（耐震化有効容量/全有効容量）について、以下のとおり示します。

1）圏域別事業規模別（給水人口別）の配水池の耐震化率

事業規模別の全道平均は、5 万人以上の規模で全国平均に近いほかは全国平均を下回るとともに、圏域による差も大きく、全体として耐震化があまり進んでいない状況です。

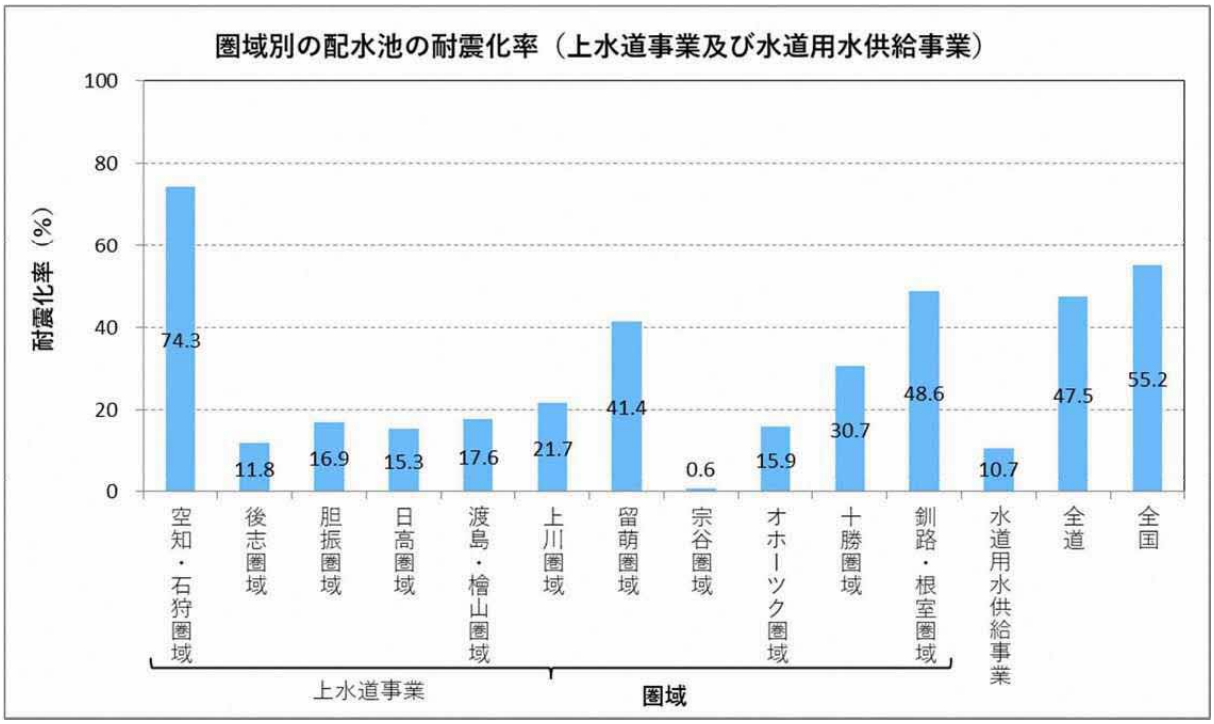
なお、簡易水道事業については、水道統計資料に無いため割愛しています。

圏域名	上水道事業及び水道用水供給事業の配水池の耐震化率			
	5万人以上（%）	1～5万人（%）	1万人未満（%）	全体（%）
空知・石狩圏域	79.5	22.3	20.9	74.3
後志圏域	17.1	0.0	－	11.8
胆振圏域	18.0	11.0	27.6	16.9
日高圏域	－	16.6	0.0	15.3
渡島・檜山圏域	8.7	36.4	22.9	17.6
上川圏域	22.2	30.3	5.1	21.7
留萌圏域	－	100.0	0.0	41.4
宗谷圏域	－	0.7	0.0	0.6
オホーツク圏域	25.3	8.0	20.3	15.9
十勝圏域	0.0	75.2	6.4	30.7
釧路・根室圏域	91.0	19.0	0.0	48.6
水道用水供給事業	10.7	－	－	10.7
全道	58.6	22.8	12.1	47.5
全国	59.4	36.8	21.9	55.2

※配水池の耐震化率（%）＝耐震化有効容量/全有効容量×100

２）圏域別の配水池の耐震化率

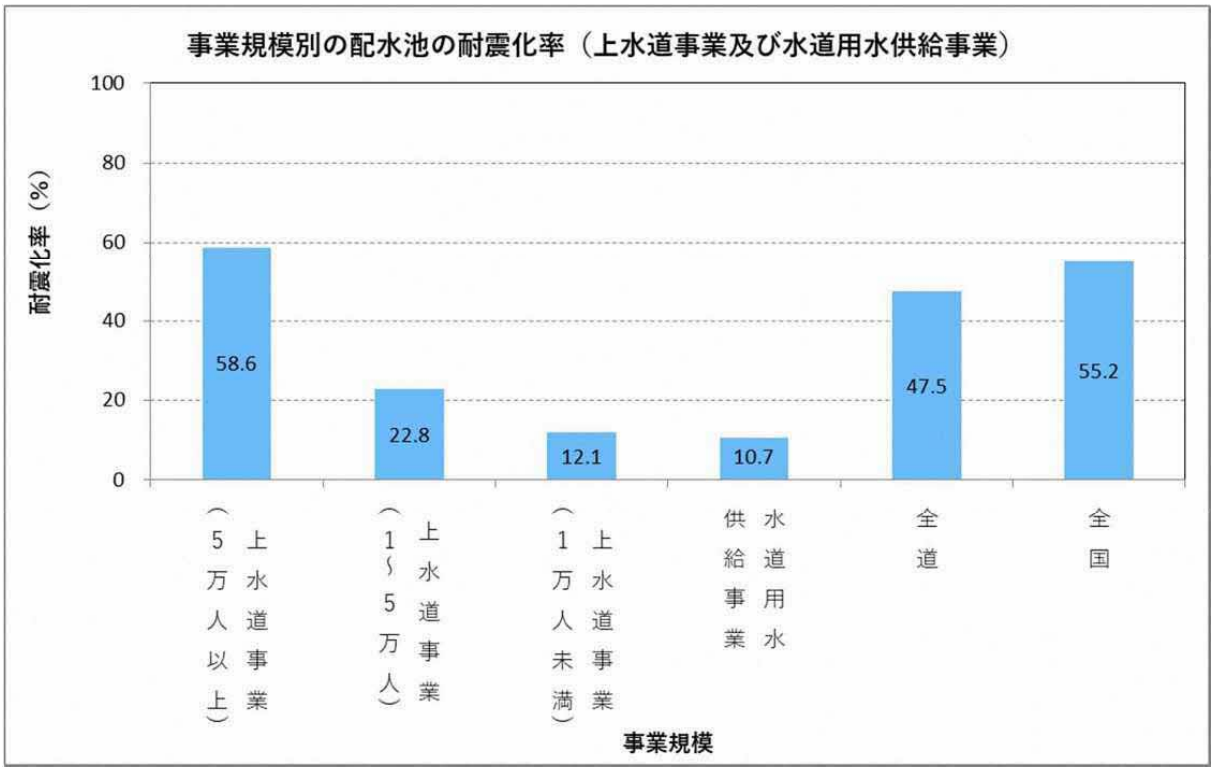
圏域別の配水池の耐震化の状況については、空知・石狩圏域が全国平均を大きく上回る以外はいずれも全国平均に達しておらず、圏域間の格差も大きい状況です。



※配水池の耐震化率（%）＝耐震化有効容量/全有効容量×100

3）事業規模別（給水人口別）の配水池の耐震化率

事業規模別の配水池の耐震化の状況については、以下のとおりです。5 万人以下の中･小規模の事業者で、全国平均を大きく下回っています。



※配水池の耐震化率（%）＝耐震化有効容量/全有効容量×100

2.5　経営指標に関すること

2.5.1 償却資産

平成 29 年度価格に換算した償却資産額（現有資産の取得価格の総額）について、以下のとおり示します。

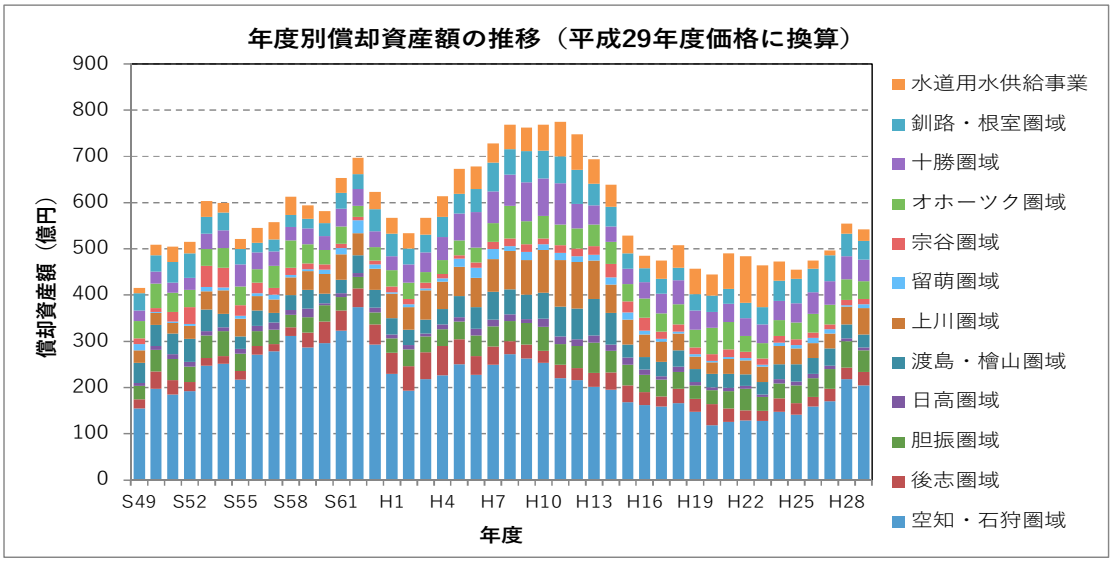
換算前の償却資産額については、法適用事業は平成 29 年度決算統計を基に算定しています。一方、法非適用事業は昭和 49 年度以降の建設改良費の積上を基に算定しています。

全道の償却資産額は 2 兆 5,387 億円であり、その内訳は上水道 2 兆 75 億円(全道の 79%)、簡易水道 3,506 億円（14%）、水道用水供給事業 1,806 億円（7%）となります。

また全道の償却資産額の構成は、管路が 73%、管路以外が 27%となります。

（単位：億円）

圏域名	上水道事業			簡易水道事業			合計		
	管路	管路以外	計	管路	管路以外	計	管路	管路以外	計
空知・石狩圏域	6,738	2,610	9,348	69	31	100	6,807	2,641	9,448
後志圏域	465	442	907	363	122	485	828	564	1,392
胆振圏域	1,255	222	1,477	177	83	260	1,432	305	1,737
日高圏域	208	23	231	170	47	217	378	70	448
渡島・檜山圏域	1,130	317	1,447	240	41	281	1,370	358	1,728
上川圏域	1,476	174	1,650	401	90	491	1,877	264	2,141
留萌圏域	174	44	218	172	31	203	346	75	421
宗谷圏域	243	161	404	274	39	313	517	200	717
オホーツク圏域	1,008	299	1,307	383	100	483	1,391	399	1,790
十勝圏域	1,282	149	1,431	444	60	504	1,726	209	1,935
釧路・根室圏域	1,157	498	1,655	100	69	169	1,257	567	1,824
全道	15,136	4,939	20,075	2,793	713	3,506	17,929	5,652	23,581
水道用水供給事業							575	1,231	1,806
全道（水道用水供給事業含む）							18,504 (73%)	6,883 (27%)	25,387 (100%)



2.5.2 更新需要（H30-R50）

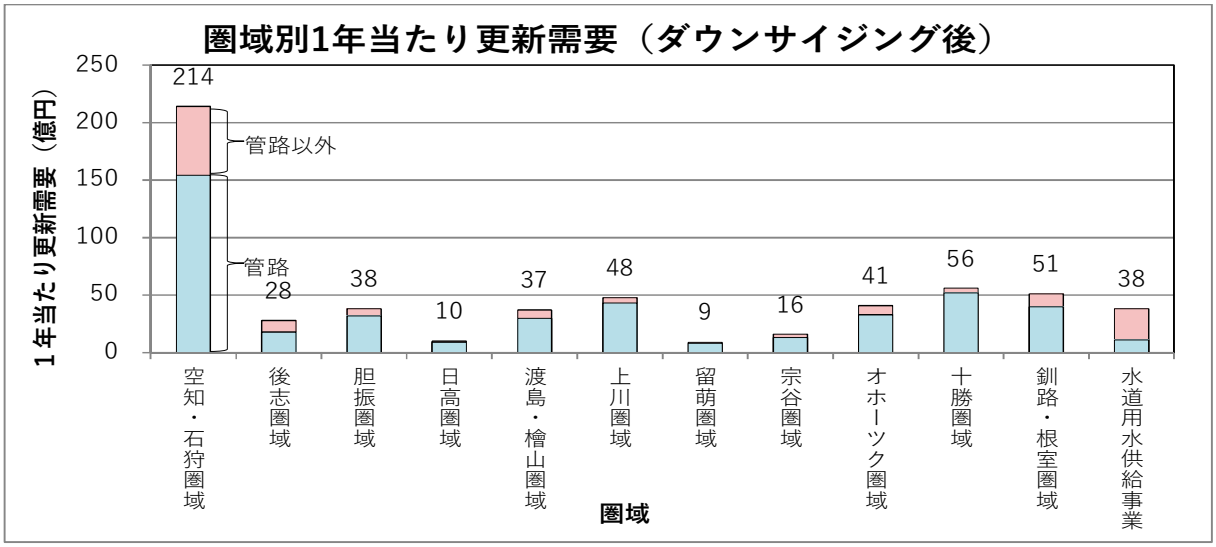
平成 30 年度から令和 50 年度までの 51 年間の更新需要の推計結果について、以下のとおり示します。

人口減少に伴う給水量の減少を想定して施設更新の規模縮小を見込んだダウンサイジング後の更新需要は、全道平均で 1 年当たり 586 億円で、ダウンサイジング前の更新需要に対し 92.9%（管路 95.5%、管路以外 85.7%）となります。

圏域別では、留萌や宗谷の給水人口が小規模な圏域や、後志、渡島・檜山圏域において、ダウンサイジング率が大きくなっています。

（単位：億円）

圏域名	ダウンサイジング前			ダウンサイジング後				比較
	管路	管路以外	計①	管路	管路以外	計②	1年当たり	②/①
空知・石狩圏域	8,201	3,490	11,691	7,849	3,090	10,939	214	93.6%
後志圏域	981	682	1,663	936	515	1,451	28	87.3%
胆振圏域	1,697	344	2,041	1,617	297	1,914	38	93.8%
日高圏域	476	70	546	450	62	512	10	93.8%
渡島・檜山圏域	1,620	426	2,046	1,516	349	1,865	37	91.2%
上川圏域	2,299	294	2,593	2,179	248	2,427	48	93.6%
留萌圏域	424	82	506	394	72	466	9	92.1%
宗谷圏域	696	243	939	653	176	829	16	88.3%
オホーツク圏域	1,790	453	2,243	1,703	374	2,077	41	92.6%
十勝圏域	2,711	234	2,945	2,639	212	2,851	56	96.8%
釧路・根室圏域	2,104	682	2,786	2,042	552	2,594	51	93.1%
全道	22,999	7,000	29,999	21,978	5,947	27,925	548	93.1%
水道用水供給事業	635	1,496	2,131	583	1,335	1,918	38	90.0%
全道（水道用水供給事業含む）	23,634	8,496	32,130	22,561	7,282	29,843	586	92.9%



2.5.3 給水収益

道内における給水収益（水道料金による収入）の状況及び推計結果について、以下に示します。

1）圏域別給水収益推計

圏域別の水道事業における給水収益について、平成 29 年度実績値と令和 10 年度から令和 50 年度までの 10 年ごとの推計値を示します。

圏域名		H29（実績）	R10	R20	R30	R40	R50
空知・石狩圏域	（千円）	51,854,298	49,437,537	46,202,977	42,242,360	38,025,194	33,573,849
	（%）	(100.0)	(95.3)	(89.1)	(81.5)	(73.3)	(64.7)
後志圏域	（千円）	4,308,203	3,703,322	3,056,712	2,494,898	2,035,093	1,663,930
	（%）	(100.0)	(86.0)	(71.0)	(57.9)	(47.2)	(38.6)
胆振圏域	（千円）	6,479,177	5,741,701	5,011,504	4,300,020	3,654,073	3,063,240
	（%）	(100.0)	(88.6)	(77.3)	(66.4)	(56.4)	(47.3)
日高圏域	（千円）	1,581,767	1,314,431	1,094,896	899,781	734,801	599,492
	（%）	(100.0)	(83.1)	(69.2)	(56.9)	(46.5)	(37.9)
渡島・檜山圏域	（千円）	7,172,596	6,033,250	5,005,489	4,056,172	3,237,725	2,541,938
	（%）	(100.0)	(84.1)	(69.8)	(56.6)	(45.1)	(35.4)
上川圏域	（千円）	7,449,548	6,630,500	5,759,640	4,867,499	4,033,502	3,261,582
	（%）	(100.0)	(89.0)	(77.3)	(65.3)	(54.1)	(43.8)
留萌圏域	（千円）	1,282,863	994,173	769,283	578,725	426,096	308,754
	（%）	(100.0)	(77.5)	(60.0)	(45.1)	(33.2)	(24.1)
宗谷圏域	（千円）	1,965,170	1,563,107	1,228,944	937,184	698,464	506,654
	（%）	(100.0)	(79.5)	(62.5)	(47.7)	(35.5)	(25.8)
オホーツク圏域	（千円）	6,268,607	5,399,424	4,624,010	3,878,372	3,203,624	2,604,311
	（%）	(100.0)	(86.1)	(73.8)	(61.9)	(51.1)	(41.5)
十勝圏域	（千円）	7,523,744	7,106,553	6,617,935	6,048,522	5,439,108	4,794,178
	（%）	(100.0)	(94.5)	(88.0)	(80.4)	(72.3)	(63.7)
釧路・根室圏域	（千円）	6,600,793	5,855,300	5,183,826	4,520,331	3,910,901	3,362,811
	（%）	(100.0)	(88.7)	(78.5)	(68.5)	(59.2)	(50.9)
水道用水供給事業	（千円）	5,717,343	6,818,687	6,343,292	5,812,720	5,278,142	4,751,653
	（%）	(100.0)	(119.3)	(110.9)	(101.7)	(92.3)	(83.1)
全道	（千円）	108,204,109	100,597,985	90,898,508	80,636,584	70,676,723	61,032,392
	（%）	(100.0)	(93.0)	(84.0)	(74.5)	(65.3)	(56.4)

（ ）内は、H29（実績値）を100とした値[給水収益比率]

2）全道（北海道）の給水収益の推移

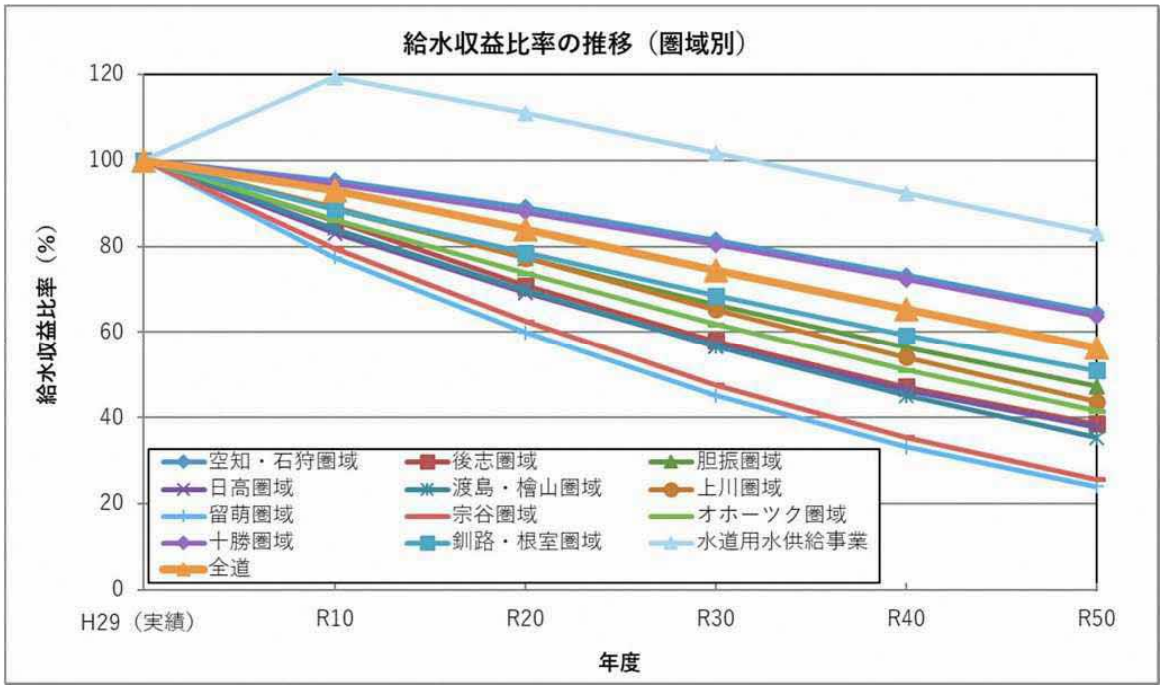
全道の水道事業における給水収益は、平成 29 年度の 1,082 億円から令和 50 年度には 610 億円とほぼ半減する見込みです。

※H29 は実績値。それ以外は推計値。

3）圏域別給水収益の推移

平成 29 年度実績値を 100 とした場合の圏域別の給水収益は、有収水量と同様に、留萌や宗谷、日高圏域など人口規模が小規模な圏域ほど減少幅が大きくなる傾向を示すほか、後志、渡島・檜山圏域でも大幅な減少が見込まれます。

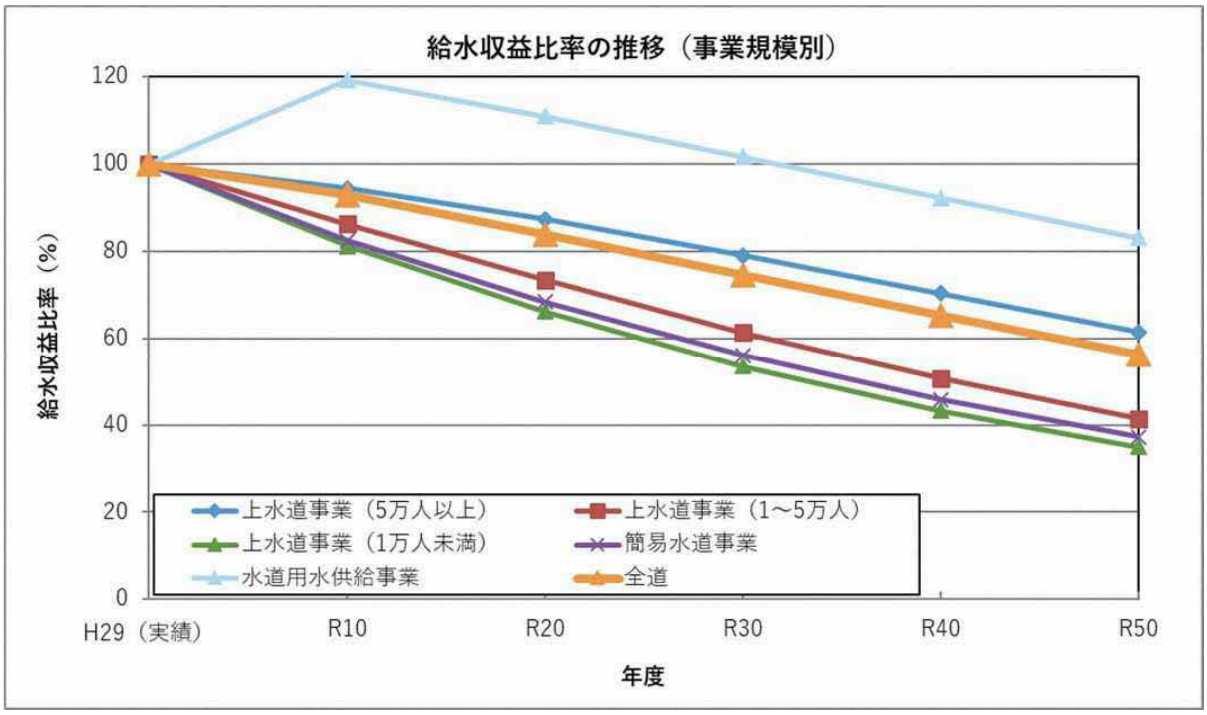
なお、水道用水供給事業で令和 10 年度に率が上昇しているのは、令和 7 年度に新たに水道用水の供給を開始する事業者があるためです。



※給水収益比率（%）＝当該年度の給水収益（推計値）／平成 29 年度の給水収益（実績値）×100

4）事業規模別の給水収益の推移

平成 29 年度実績値を 100 とした場合の事業規模別の水道事業の給水収益は、有収水量と同様に事業規模が小さいほど減少が大きくなる傾向を示しています。



※給水収益比率（%）＝当該年度の給水収益（推計値）／平成 29 年度の給水収益（実績値）×100

2.5.4 収益性の指標

収益性の指標である経常収支比率（経常収入/経常費用）及び料金回収率（供給単価/給水原価）の状況及び推計結果について、以下のとおり示します。

なお、法非適用事業においては、収益的収支比率（総収益/(総費用＋地方債償還金)）を用います。（以下同じ）

１）経常収支比率(収益的収支比率)

経常収支比率は、給水収益や一般会計からの繰入金等の収益で維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを表す指標です。

圏域別の経常収支比率について、平成 29 年度実績値と令和 10 年度から令和 50 年度までの 10 年ごとの推計値を示します。

平成 29 年度の道内平均は 100%を超えており、全国平均と比べると同水準となっています。

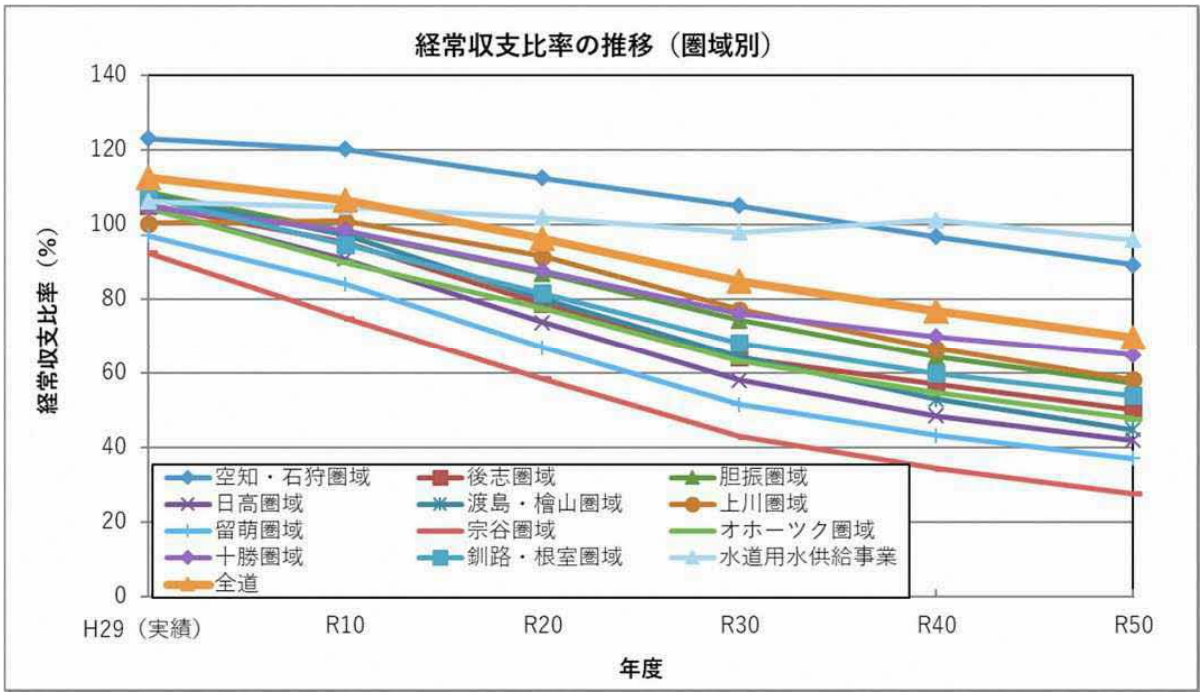
圏域名		H29（実績）	R10	R20	R30	R40	R50
空知・石狩圏域	（%）	123.0%	120.2%	112.5%	105.0%	96.7%	89.2%
後志圏域	（%）	105.1%	95.3%	78.7%	64.2%	56.8%	50.1%
胆振圏域	（%）	108.7%	98.2%	86.9%	74.3%	64.3%	57.2%
日高圏域	（%）	104.5%	90.7%	73.7%	58.0%	48.5%	41.9%
渡島・檜山圏域	（%）	107.8%	97.3%	80.0%	64.3%	52.9%	44.7%
上川圏域	（%）	100.3%	100.8%	91.5%	77.1%	66.6%	58.1%
留萌圏域	（%）	97.0%	84.0%	66.9%	51.4%	43.2%	37.0%
宗谷圏域	（%）	92.5%	74.9%	58.5%	42.9%	34.3%	27.6%
オホーツク圏域	（%）	104.4%	89.8%	77.4%	63.2%	54.6%	47.7%
十勝圏域	（%）	104.6%	98.4%	87.6%	76.2%	69.8%	64.9%
釧路・根室圏域	（%）	107.1%	94.6%	81.6%	68.1%	59.8%	53.8%
水道用水供給事業	（%）	106.1%	104.7%	101.8%	97.9%	101.1%	95.8%
全道	（%）	112.5%	106.4%	96.1%	84.9%	76.8%	69.7%
全国	（%）	113.4%					

※経常収支比率(%)＝経常収益／経常費用×100

収益的収支比率(%)＝総収益／(総費用＋地方債償還金)×100

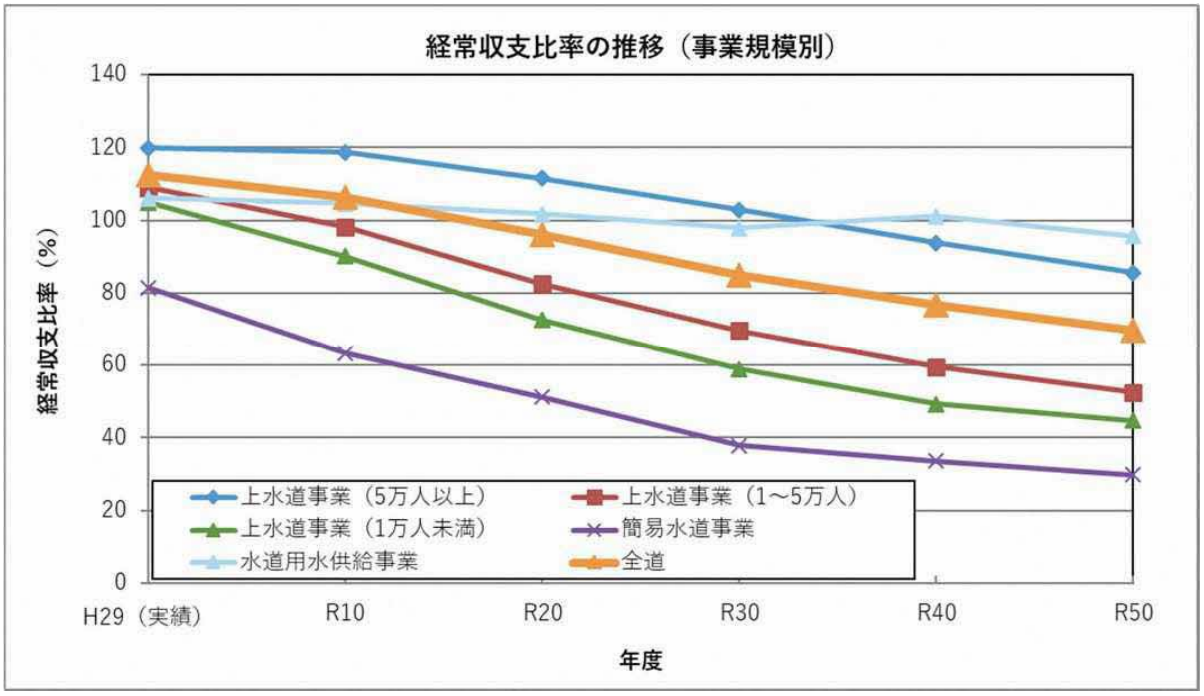
①圏域別経常収支比率の推移

圏域別の経常収支比率は、全圏域が令和 50 年度時点で 100%を下回りますが、平成 29 年度実績で 100%を下回っている留萌圏域、宗谷圏域のほか、日高圏域、渡島・檜山圏域で他の圏域よりも減少幅が大きく、圏域間の格差が広がっていきます。



②事業規模別経常収支比率の推移

事業規模別の経常収支比率は、推計期間を通じて、事業規模が小さいほど低く推移し、全事業規模が令和 50 年度時点で 100%を下回ります。



2）料金回収率

料金回収率は給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表す指標です。

圏域別の料金回収率について、平成 29 年度実績値と令和 10 年度から令和 50 年度までの 10 年ごとの推計値を示します。

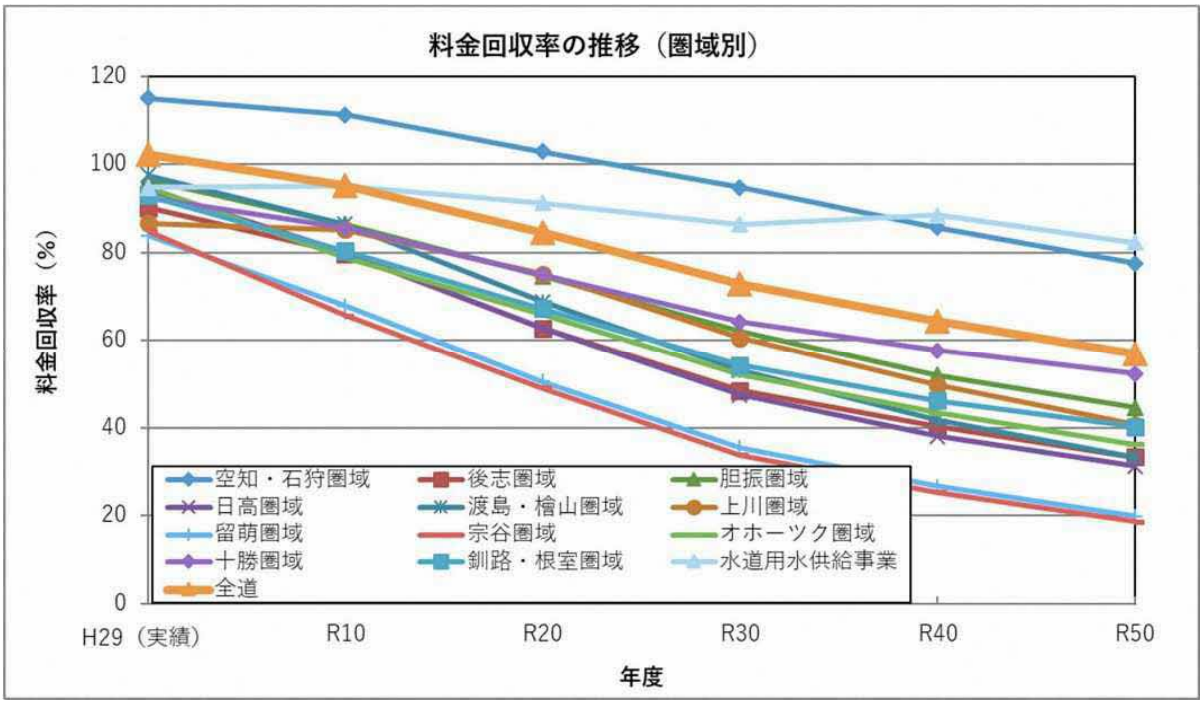
平成 29 年度の道内平均は 100%を超えているものの、全国平均と比べると低い結果となっているほか、ほとんどの圏域で 100%を下回っており、給水収益で給水に係る費用が賄いきれていないことを示しています。

圏域名		H29（実績）	R10	R20	R30	R40	R50
空知・石狩圏域	（%）	115.0%	111.2%	102.9%	94.7%	85.7%	77.6%
後志圏域	（%）	90.2%	79.7%	62.8%	48.5%	40.3%	33.3%
胆振圏域	（%）	96.4%	86.4%	74.7%	62.1%	52.0%	44.6%
日高圏域	（%）	94.4%	80.0%	62.8%	47.5%	38.1%	31.3%
渡島・檜山圏域	（%）	97.5%	86.4%	68.8%	53.1%	41.8%	33.3%
上川圏域	（%）	86.7%	85.2%	75.1%	60.6%	49.7%	40.7%
留萌圏域	（%）	83.8%	67.9%	50.6%	35.5%	26.7%	19.9%
宗谷圏域	（%）	84.9%	65.7%	49.1%	33.8%	25.4%	18.7%
オホーツク圏域	（%）	94.7%	78.9%	66.1%	52.2%	43.4%	36.2%
十勝圏域	（%）	92.5%	85.6%	75.0%	64.2%	57.7%	52.4%
釧路・根室圏域	（%）	92.9%	80.3%	67.3%	54.3%	46.2%	40.2%
水道用水供給事業	（%）	94.8%	95.0%	91.2%	86.4%	88.5%	82.3%
全道	（%）	102.1%	95.3%	84.5%	72.9%	64.4%	56.8%
全国	（%）	104.4%					

※料金回収率(%)＝供給単価／給水原価×100

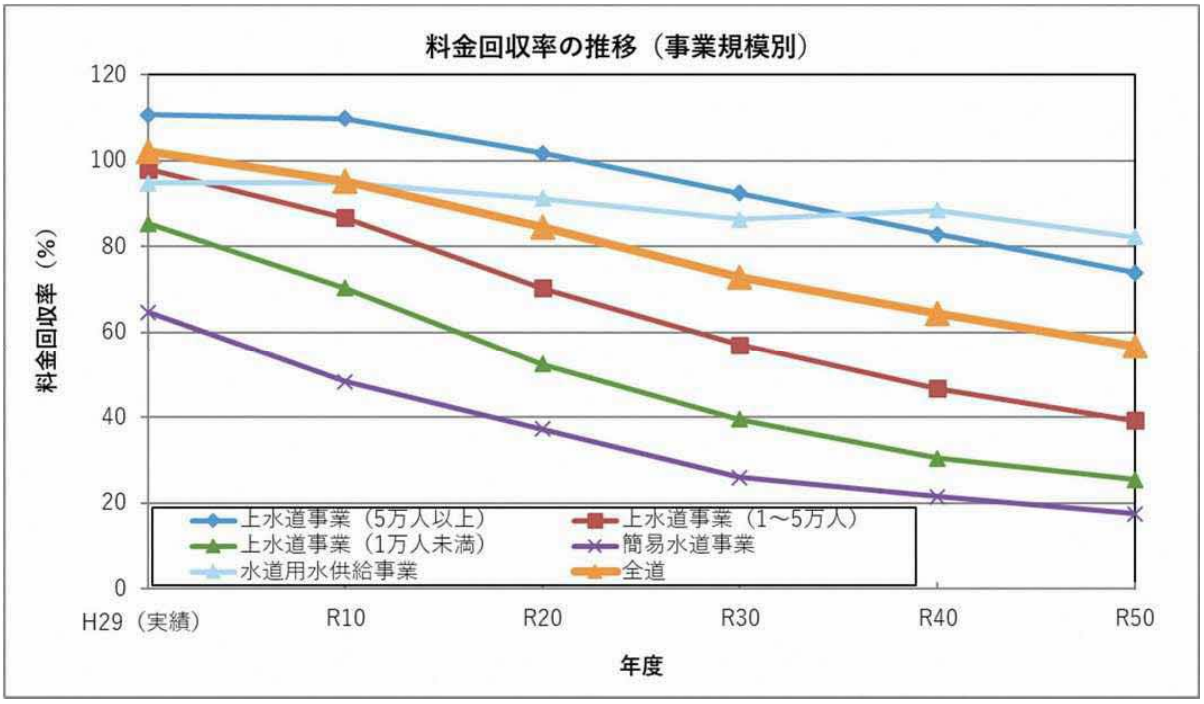
①圏域別料金回収率の推移

圏域別の料金回収率は、平成 29 年度実績で空知・石狩圏域を除き、全圏域で 100%を下回っており、空知・石狩圏域についても令和 30 年度時点で 100%を下回ります。また、給水収益の減少と同様に留萌、宗谷圏域など人口規模が小さな圏域で低く推移する見込みです。



②事業規模別料金回収率の推移

事業規模別の料金回収率は、推計期間を通じて、事業規模が小さいほど低く推移し、全事業規模が令和 30 年度時点で 100%を下回ります。



2.5.5 経営安全性の指標

経営安全性の指標である累積欠損金比率（累積欠損金/（営業収益－受託工事収益））、企業債残高対給水収益比率（企業債残高/給水収益）、流動比率（（流動資産／流動負債）、法適用事業のみ）の状況及び推計結果について次のとおり示します。

なお、法非適用事業においては、累積欠損金比率に代えて赤字比率（実質赤字額／（営業収益－受託工事収益））を用います。（以下同じ）

1）累積欠損金比率（赤字比率）

累積欠損金比率は営業収益に対する累積欠損金の状況を、赤字比率は営業収益に対する実質収支上の赤字額の状況を表す指標です。

圏域別の累積欠損金比率について、平成 29 年度実績値と令和 10 年度から令和 50 年度までの 10 年ごとの推計値を示します。

平成 29 年度の道内平均は全国平均と比べると高い結果となっているほか、多くの圏域で全国平均を上回っています。なお、繰越利益剰余金のある事業者は、平成 29 年度実績を 0%として推計しています。

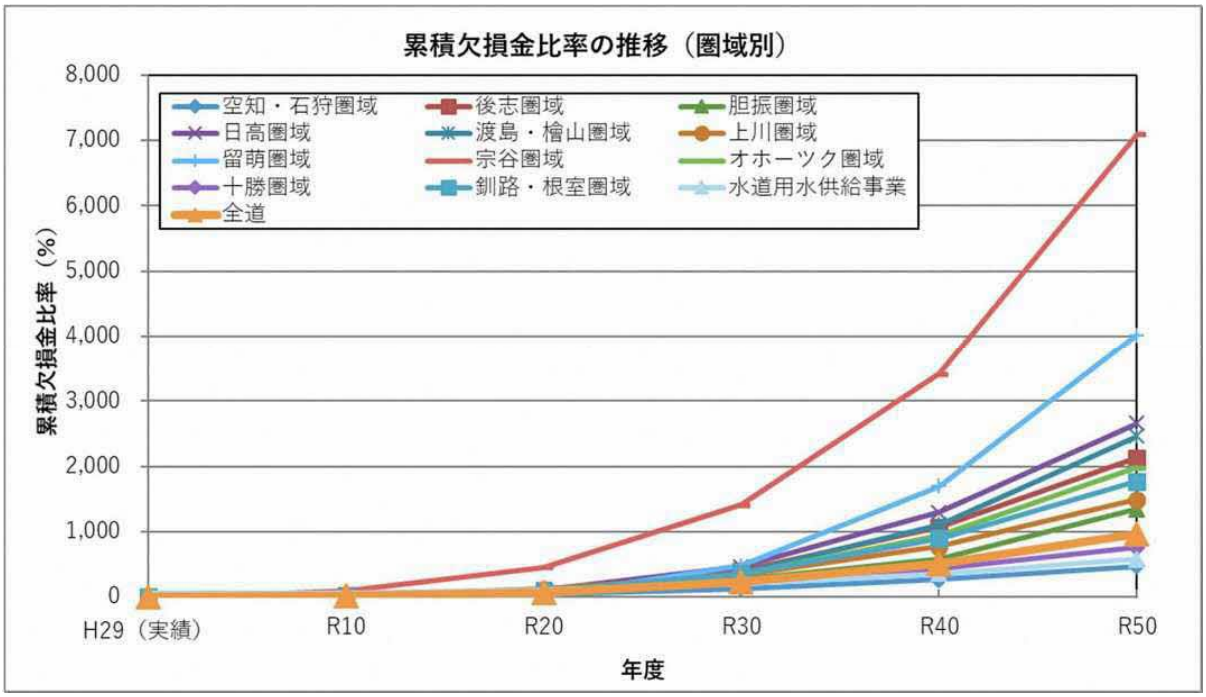
圏域名		H29（実績）	R10	R20	R30	R40	R50
空知・石狩圏域	（%）	2.5%	19.1%	56.0%	143.2%	297.0%	510.0%
後志圏域	（%）	0.2%	22.5%	83.7%	433.9%	1120.2%	2201.9%
胆振圏域	（%）	2.4%	20.7%	100.4%	276.3%	656.2%	1451.1%
日高圏域	（%）	0.0%	13.1%	118.3%	467.5%	1295.1%	2662.1%
渡島・檜山圏域	（%）	2.4%	0.0%	64.0%	431.3%	1216.0%	2676.5%
上川圏域	（%）	1.9%	35.7%	128.6%	350.0%	803.2%	1532.4%
留萌圏域	（%）	0.0%	1.9%	18.9%	486.1%	1712.1%	4043.2%
宗谷圏域	（%）	0.2%	95.7%	454.5%	1414.4%	3427.9%	7110.0%
オホーツク圏域	（%）	11.3%	25.5%	136.1%	432.1%	1066.2%	2168.4%
十勝圏域	（%）	8.4%	33.6%	93.9%	217.8%	437.0%	757.4%
釧路・根室圏域	（%）	3.1%	5.8%	95.1%	384.3%	944.8%	1838.2%
水道用水供給事業	（%）	57.7%	57.9%	107.6%	207.8%	362.1%	578.4%
全道	（%）	6.0%	23.2%	82.5%	244.6%	548.1%	1018.5%
全国	（%）	0.9%					

※累積欠損金比率(%)＝累積欠損金／(営業収益－受託工事収益)×100

赤字比率(%)＝実質赤字額／(営業収益－受託工事収益)×100

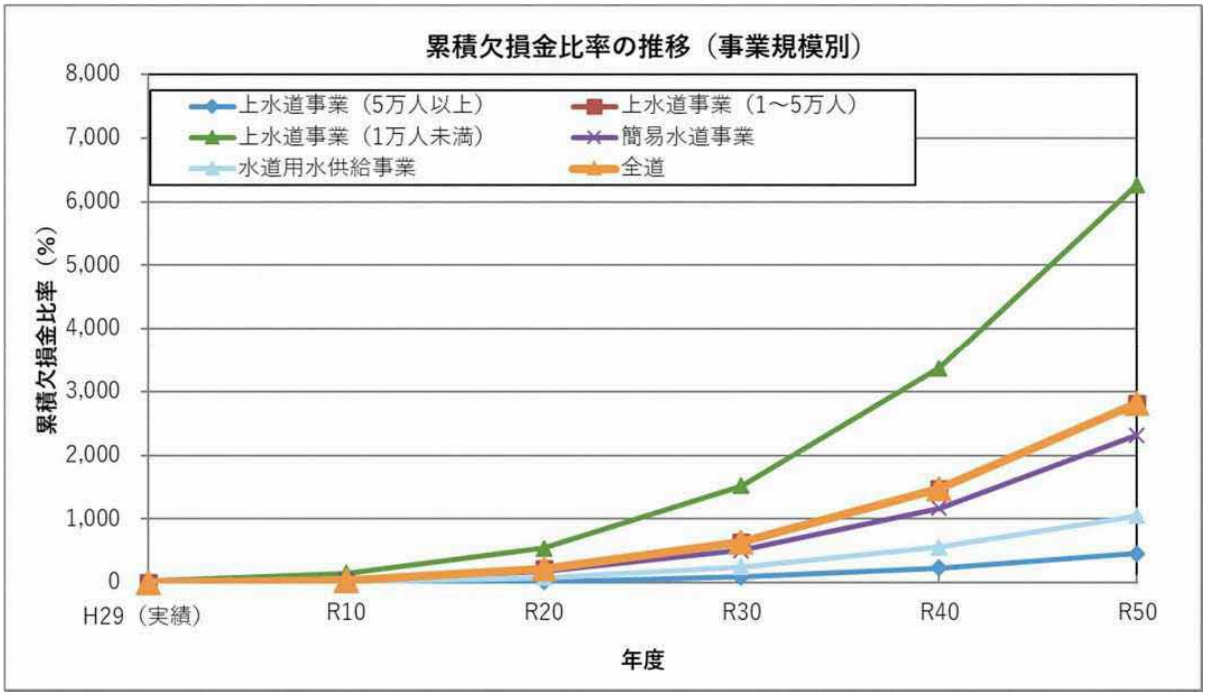
①圏域別累積欠損金比率の推移

圏域別の累積欠損金比率は、人口規模が小規模な留萌、日高、宗谷圏域で大きく上昇する一方、人口規模が大きな空知・石狩、中規模な十勝、胆振圏域などで比較的低く推移し、人口規模による格差が広がる見込みです。



②事業規模別累積欠損金比率の推移

事業規模別の累積欠損金比率は、事業規模による格差が広がる見込みです。



２）企業債残高対給水収益比率

企業債残高対給水収益比率は給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標です。

圏域別の企業債残高対給水収益比率について、平成 29 年度実績値と令和 10 年度から令和 50 年度までの 10 年ごとの推計値を示します。

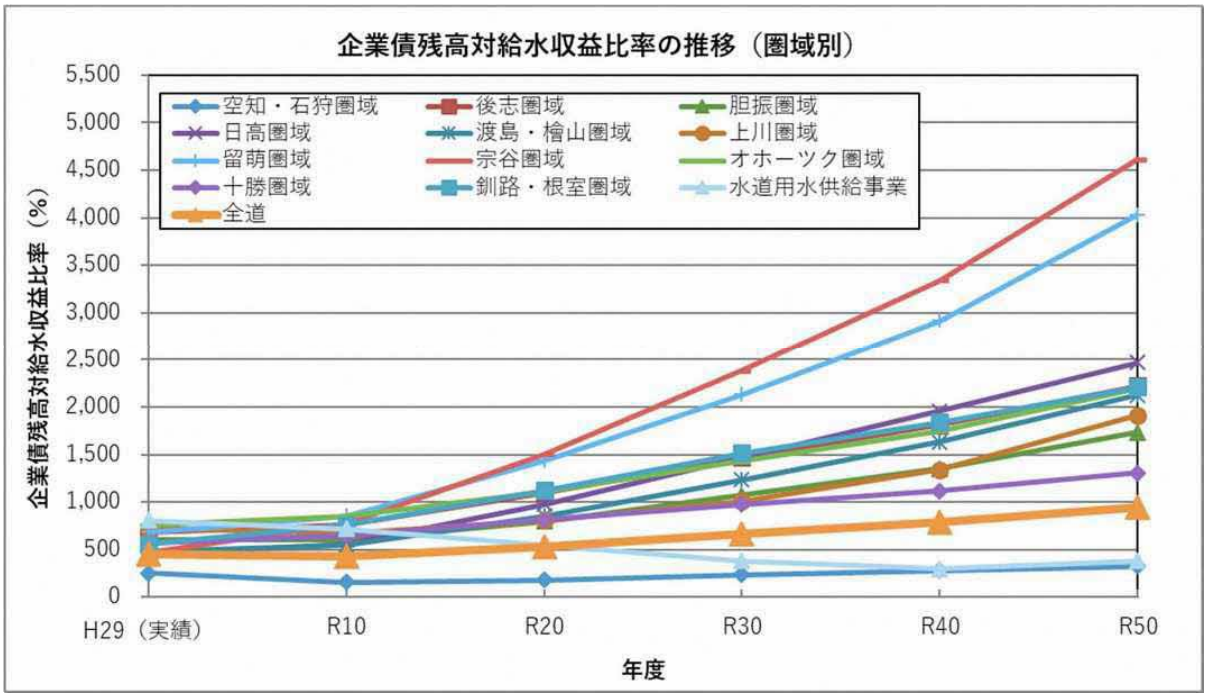
平成 29 年度の道内平均は全国平均と比べると高い結果となっており、ほとんどの圏域で全国平均を上回っています。

圏域名		H29（実績）	R10	R20	R30	R40	R50
空知・石狩圏域	（%）	252.5%	154.6%	179.0%	233.2%	280.1%	326.2%
後志圏域	（%）	683.5%	757.1%	1092.2%	1470.5%	1812.8%	2221.2%
胆振圏域	（%）	599.5%	604.6%	797.3%	1072.5%	1350.2%	1733.1%
日高圏域	（%）	440.8%	554.7%	973.5%	1472.2%	1959.9%	2465.6%
渡島・檜山圏域	（%）	481.8%	543.5%	850.3%	1232.3%	1631.5%	2126.9%
上川圏域	（%）	723.2%	674.2%	805.4%	1009.6%	1339.8%	1914.3%
留萌圏域	（%）	682.1%	854.2%	1435.0%	2133.7%	2915.3%	4031.6%
宗谷圏域	（%）	468.6%	776.6%	1503.6%	2385.4%	3342.9%	4612.9%
オホーツク圏域	（%）	755.5%	845.2%	1104.5%	1430.4%	1749.2%	2191.4%
十勝圏域	（%）	566.9%	642.6%	812.6%	977.3%	1116.8%	1307.0%
釧路・根室圏域	（%）	554.5%	757.8%	1120.3%	1516.9%	1839.0%	2207.2%
水道用水供給事業	（%）	809.3%	719.4%	550.4%	384.2%	297.4%	382.8%
全道	（%）	448.7%	426.8%	531.4%	662.1%	784.1%	948.4%
全国	（%）	274.3%					

※企業債残高対給水収益比率(%)＝企業債残高／給水収益×100

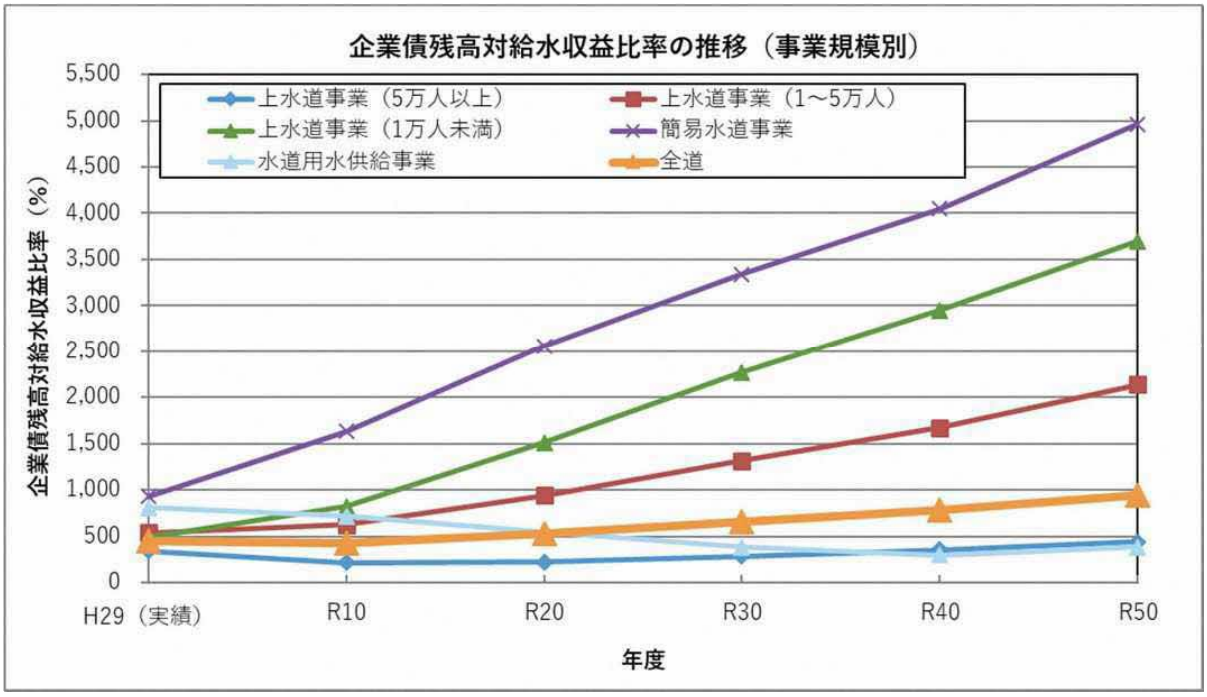
①圏域別企業債残高対給水収益比率の推移

圏域別の企業債残高対給水収益比率は、人口規模が小規模な留萌、宗谷圏域で大きく上昇する一方、人口規模が大きな空知・石狩圏域などで比較的低く推移し、人口規模による格差が広がる見込みです。



②事業規模別企業債残高対給水収益比率の推移

事業規模別の企業債残高対給水収益比率は、事業規模による格差が広がる見込みです。



3）流動比率

流動比率は流動資産に対する流動負債の割合であり、短期的な債務に対する支払能力を表す指標です。

圏域別の流動比率について、平成 29 年度実績値と令和 10 年度から令和 50 年度までの 10 年ごとの推計値を示します。

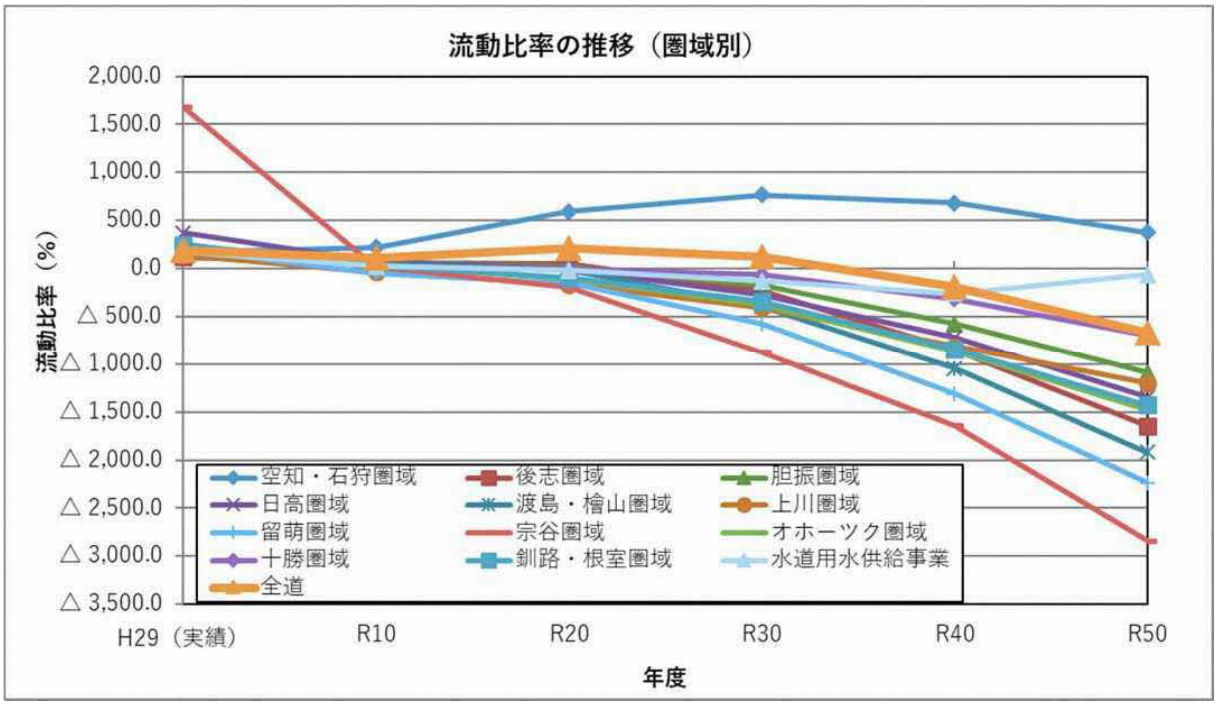
平成 29 年度の道内平均は全国平均と比べると低い結果となっており、ほとんどの圏域で全国平均を下回っています。

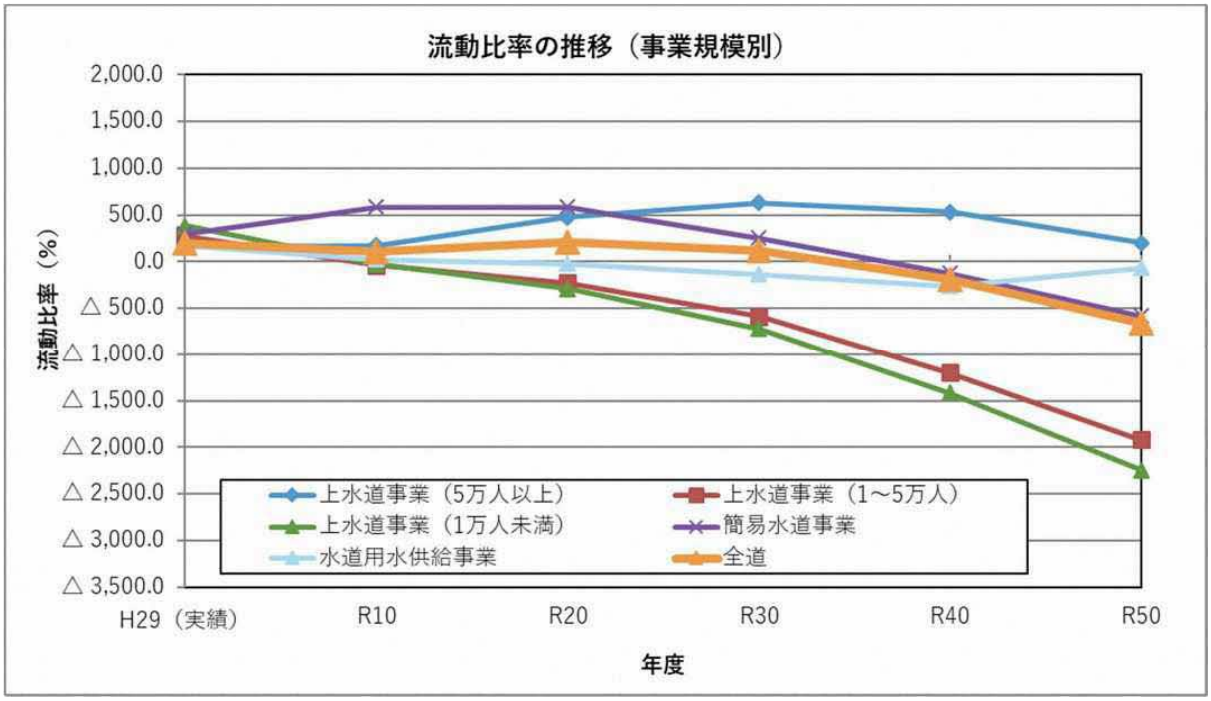
圏域名	H29（実績）	R10	R20	R30	R40	R50
空知・石狩圏域 （%）	170.5%	219.3%	596.7%	766.1%	684.0%	379.2%
後志圏域 （%）	122.4%	61.7%	48.1%	△ 229.8%	△ 849.0%	△ 1,647.0%
胆振圏域 （%）	225.8%	78.4%	21.2%	△ 173.5%	△ 578.3%	△ 1,086.8%
日高圏域 （%）	369.7%	70.7%	△ 9.1%	△ 268.8%	△ 721.4%	△ 1,343.4%
渡島・檜山圏域 （%）	215.6%	50.9%	△ 21.5%	△ 390.8%	△ 1,043.4%	△ 1,917.7%
上川圏域 （%）	141.4%	△ 32.9%	△ 163.9%	△ 404.2%	△ 811.1%	△ 1,200.7%
留萌圏域 （%）	209.9%	△ 44.2%	△ 146.8%	△ 578.7%	△ 1,312.9%	△ 2,238.2%
宗谷圏域 （%）	1,678.1%	12.7%	△ 197.2%	△ 872.9%	△ 1,640.7%	△ 2,840.2%
オホーツク圏域 （%）	243.9%	38.0%	△ 107.8%	△ 371.3%	△ 862.8%	△ 1,472.3%
十勝圏域 （%）	252.6%	17.4%	△ 9.3%	△ 64.9%	△ 314.2%	△ 697.6%
釧路・根室圏域 （%）	249.0%	30.9%	△ 98.9%	△ 343.7%	△ 845.7%	△ 1,426.5%
水道用水供給事業 （%）	174.7%	24.2%	△ 20.9%	△ 132.5%	△ 260.9%	△ 63.7%
全道 （%）	194.9%	109.0%	208.3%	121.0%	△ 191.7%	△ 662.5%
全国 （%）	264.3%					

※流動比率(%)＝流動資産／流動負債×100

①圏域別流動比率の推移

圏域別の流動比率は、人口規模が小規模な留萌、宗谷圏域で大きく減少する一方、人口規模が大きな空知・石狩圏域などで比較的高く推移し、人口規模による格差が広がる見込みです。



②事業規模別流動比率の推移

事業規模別の流動比率は、上水道事業に関しては事業規模による格差が広がる見込みです。